

事務事業及び予算の執行実績

(令和5年度「一部、令和6年度分を含む」)

静岡県立静岡高等学校

目 次

事務事業の概要	1
事務執行の根拠法令調	29
学校施設の概要	30
在籍生徒調	32
入学志願者及び入学者数調	33
卒業生の動向調	34
生徒の状況	35
授業料収納状況調	38
県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	42
過年度分収入未済額調	42
預金調	43
委託料等歳出予算執行状況節別集計表	44
委託料に関する調	46
補助金支出調	50
負担金支出調	54
建築工事調	56
繰越工事調	60
公有財産調	62
借地借家等調	63
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	64
行政財産貸付・使用許可調	66
普通財産・借受財産等貸付調	68
職員公舎管理状況調	69
主要備品調	70
職員調	71
職員の年齢調	76
健康管理	77

□□□□

事 務 事 業 の 概 要

1 概況

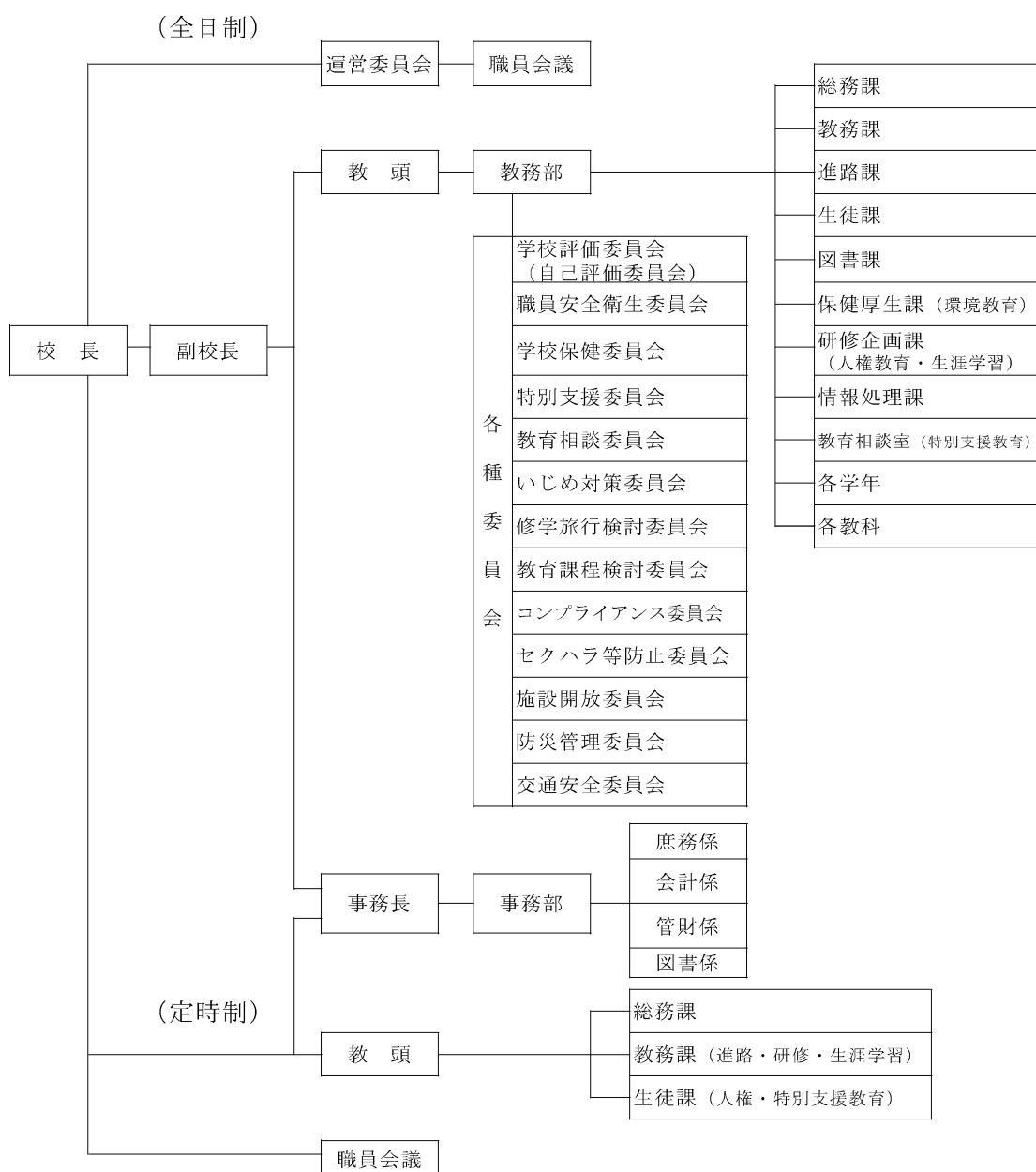
(1) 学校の沿革

明治11. 9	静岡師範学校内に中学課を開設
明治12. 6	中学課を分離して静岡中学校と称し同校内に併置
明治19. 7. 29	県立静岡、浜松、沼津の三中学校を合併して、県立静岡中学校と称し、仮校舎（県会議事堂一現警察署所在地、物産陳列場一御用邸跡）で授業を開始 生徒 250 人
明治20. 3. 29	第一回卒業証書授与式举行。卒業生 4 人
明治20. 5. 21	市内西草深町の新校舎に移転し、20 年 6 月静岡尋常中学校と改称
明治33. 3	市内長谷町の新校舎に移転。生徒定員 600 人
明治34. 4. 26	静岡県立静岡中学校と改称
明治43. 10. 17	創立 25 周年記念式典举行 記念事業として同窓会、生徒保護者及び一般有志の寄付金により記念館建築
大正 5. 5. 27	校歌制定
大正10. 4. 1	生徒定員 1,000 人
大正13. 9	生徒保護者会創設。校舎北側に平屋建 1 棟五教室増築
大正14. 4. 1	20 学級
昭和 3. 11. 23	創立 50 周年記念式典举行。記念事業として同窓会、生徒保護者及び一般有志の寄付金により図書館建築。プール新設。運動場拡張
昭和 5. 5. 29	天皇陛下行幸され、授業及び諸運動を御覧になる。
昭和 5. 12. 10	「印高」碑を玄関前に建設
昭和 8. 11	運動場拡張完成
昭和12. 2	講堂新築完成
昭和13. 3. 31	生徒定員一学年 250 人
昭和17. 4. 1	25 学級
昭和20. 6. 20	戦災により校舎全焼
昭和20. 9. 15	市内高松扶桑金属株式会社青年学校を仮校舎として授業を行う。
昭和21. 2. 3	仮校舎漏電により本館全焼
昭和21. 6. 11	天皇陛下行幸される。
昭和22. 1. 7	市内小鹿三菱重工業株式会社事務所を仮校舎として移転
昭和22. 5. 10	旧 34 連隊跡を改造し、校舎として移転
昭和23. 4. 1	新学制実施により静岡県立静岡第一高等学校となる。 通信教育部設置第一回生募集
昭和23. 10. 23	定時制設置定員 160 人
昭和24. 4. 1	男女共学制度を実施、校名を静岡県立静岡城内高等学校と改称
昭和25. 4. 1	生徒定員 1,050 人
昭和26. 4. 1	定時制生徒定員 320 人
昭和26. 12. 15	市内長谷町校地に新校舎第 1 期工事鉄筋三階建 1 棟完成。延 972 坪
昭和27. 4. 8	新校舎に第 2、第 3 学年を収容して授業開始
昭和28. 3. 31	第 2 棟完成。延 976 坪
昭和28. 4. 8	城内教室に残留の第 1 学年も新校舎に移転完了
昭和28. 9. 1	校名を静岡県立静岡高等学校と改称
昭和28. 10. 2	創立 75 周年記念式及び校舎落成式举行
昭和31. 10. 12	体育館兼講堂落成式举行
昭和36. 3. 31	通信教育実施校指定廃止
昭和38. 4. 1	全日制生徒定員 1,150 人
昭和39. 4. 1	全日制生徒定員 1,200 人
昭和40. 4. 1	全日制生徒定員 1,250 人

昭和40.	5. 23	図書館兼同窓会館落成式挙行
昭和40.	7. 20	合宿所完成
昭和41.	4. 1	全日制生徒定員 1,200 人
昭和41.	12. 23	給食室・食堂完成
昭和42.	4. 1	全日制生徒定員 1,150 人
昭和42.	7. 21	プール改修工事完成
昭和43.	3. 31	バックネット施設工事完成
昭和43.	4. 1	全日制生徒定員 1,086 人
昭和44.	4. 1	全日制生徒定員 1,015 人
昭和45.	4. 1	全日制生徒定員 987 人 定時制に衛生看護科（定員 40 人）設置される。
昭和45.	7. 20	運動場夜間照明装置新設
昭和46.	2. 24	バックネット増設工事完成
昭和46.	4. 1	全日制生徒定員 966 人、定時制生徒定員 400 人
昭和47.	4. 1	全日制生徒定員 952 人、定時制生徒定員 440 人
昭和48.	4. 1	全日制生徒定員 945 人、定時制生徒定員 480 人
昭和49.	4. 1	全日制生徒定員 990 人
昭和49.	5. 21	第2体育館完成及び旧体育館一部改造完成
昭和50.	4. 1	全日制生徒定員 1,035 人
昭和51.	4. 1	全日制生徒定員 1,080 人
昭和52.	3. 31	校舎第1棟増築工事完成
昭和53.	3. 31	校舎第1棟便所改修工事完成
昭和53.	9. 22	校舎第2棟便所改修工事完成
昭和53.	10. 7	創立百周年記念式及び記念行事挙行
昭和55.	4. 1	全日制生徒定員 1,125 人
昭和57.	3. 31	運動場敷地一部買収
昭和57.	4. 1	定時制生徒定員 440 人
昭和58.	4. 1	全日制生徒定員 1,080 人
昭和61.	4. 1	定時制生徒定員 480 人
昭和62.	4. 1	全日制生徒定員 1,125 人
昭和62.	7. 20	校舎全面改築工事着工
昭和62.	9. 10	静岡県自治研修所を仮校舎として移転
昭和63.	4. 1	全日制生徒定員 1,170 人
昭和63.	12. 15	校舎全面改築工事完成
昭和63.	12. 23	新校舎に移転完了
平成元.	1. 28	新校舎落成式挙行
平成元.	4. 1	全日制生徒定員 1,215 人
平成 4.	4. 1	定時制生徒定員 440 人
平成 5.	4. 1	全日制生徒定員 1,197 人、定時制生徒定員 400 人
平成 6.	4. 1	全日制生徒定員 1,170 人、定時制生徒定員 360 人
平成 6.	11. 18	第2体育館耐震補強工事完成
平成 7.	4. 1	全日制生徒定員 1,134 人、定時制生徒定員 320 人
平成 8.	4. 1	全日制生徒定員 1,107 人
平成 9.	4. 1	全日制生徒定員 1,089 人
平成10.	4. 1	全日制生徒定員 1,080 人
平成13.	4. 1	定時制衛生看護科募集停止。定時制生徒定員 280 人
平成14.	4. 1	全日制生徒定員 1,040 人、定時制生徒定員 240 人
平成15.	4. 1	全日制生徒定員 1,000 人、定時制生徒定員 200 人
平成15.	11. 15	創立 125 周年記念式典及び記念行事挙行
平成15.	12. 25	図書館兼同窓会館耐震補強工事完成

平成16.	3. 31	定時制衛生看護科閉科
平成16.	4. 1	全日制生徒定員 960 人、定時制生徒定員 160 人
平成16.	4. 30	学習資料館（印高館）完成
平成17.	3. 30	全天候型運動場完成
平成21.	3. 13	巴川総合流域防災事業（流域貯留）工事完成
平成24.	3. 15	第1体育館等耐震補強工事完成
平成25.	11. 19	ブロック塀等改修工事完成
平成27.	3. 16	防球ネット等建築工事完成
平成31.	3. 22	巴川総合流域防災事業（流域貯留）改修工事完成
令和 3.	4. 1	全日制生徒定員 920 人
令和 6.	4. 1	全日制生徒定員 960 人

(2) 組織図



2 教育方針

1 スクール・ミッション

(全日制)

本県における高校教育のフロントランナーとして、校訓「印高」の精神の下、主体的に勉学に励み、何事にも探究心をもって課題解決を図る学習を通して、将来、国内外の様々な分野で活躍するグローバルリーダーの育成を目指す。

(定時制)

静岡地区における普通科の夜間定時制として、生徒一人一人に応じた、きめ細かくあたたかみのある教育を通して、自己実現に向けて、常に向上心を持って粘り強く努力できる人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) 校訓

印高（高きを仰ぐ）

(2) 実践目標

(全日制)

われわれは勉強を本分とする。われわれは人に迷惑をかけない。

われわれは自主的に行動する。

(定時制)

われわれは勉強を本分とする。われわれは人に迷惑をかけない。

われわれは自主的に行動する。われわれは勤労を愛する。

(3) スクール・ポリシー

(全日制)

ア グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

①高い志をもって広く社会に貢献しようとする気概に溢れた人

②幅広い教養を備えて物事を多角的総合的に判断できる人

③主体的に学び、常に自己の知的な枠組みを刷新できる人

イ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

①世界に目を向ける気構えと、周囲への感謝を忘れない謙虚さを併せ持つ人間性を育む。

②知的好奇心をもって自然や社会の諸現象を理解しようとする知性を育む。

③自己の考えを発信する力と、他者の考えを尊重し調整する力を併せ持つリーダーシップを育む。

ウ アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）

①好奇心が旺盛で学んだことを高いレベルで活用できる者

②3年間自分自身を成長させ続ける意思がある者

③多様な価値観を認め、豊かな人間関係をつくることのできる者

(定時制)

ア グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）

①自己実現に向けて、主体的に学び、向上心を持って粘り強く努力できる人

②他者を思いやり異なる価値観を受け入れ、協働することができる人

③地域の一員として、自己が果たすべき役割や責任を自覚し、社会的に自立できる人

イ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

①多様な学習活動を設定し、個に応じた最適な学びを積み重ね、自己肯定感を育む。

（印高基礎、総合的な探究の時間、体験・実習活動など）

- ②学校行事や特別活動を通して、自己理解及び他者との関わりを深め、協調性を育む。
(体育祭、各種観賞会、生徒会行事、修学旅行、LHRなど)
- ③様々な教育資源を活用し、自己の在り方を模索することで、たくましく生きる力を育む。
(外部機関との連携、外部講師、キャリア教育など)

ウ アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）

- ①目標を持って意欲的に学校生活を送る意志がある者
- ②自他を大切にし、共に活動する意欲がある者
- ③将来に向かって、自らの可能性を広げたい者

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等
(全日制)

(1) 令和5年度の取組目標への評価及び成果と課題

※ 評価基準 A：十分目標を達成することができた
B：おおむね目標を達成することができた
C：あまり目標を達成することができなかった
D：ほとんど目標を達成することができなかった

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	毎日の学習及び生活のリズムを確立する	○「規則正しい生活（生活リズムを確立）している」と自己評価する生徒 70%以上 ○「挨拶ができています」と自己評価する生徒 80%以上	○全体 65% 1年 62% 2年 64% 3年 69% ○全体 85% 1年 90% 2年 85% 3年 79%	B	○「規則正しい生活をしている」と自己評価した生徒は、目標の 70%には届かなかった。健康面にも繋がるので引き続き生活リズムの確立を促していく。 ○「挨拶ができています」と自己評価する生徒の割合は目標を超えたが、校内での挨拶の様子を見る限りではまだ改善の余地がある。
イ	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、知的好奇心や探究心を喚起する	○授業を大切にしている生徒、主体的に学ぶ生徒の育成 ○「授業の内容がよくわかる」、「知的好奇心を喚起する授業が行われている」と自己評価する生徒 80%以上 ○測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組む教員 90%以上	○全体 87% 1年 90% 2年 87% 3年 82% ○全体 86% 1年 81% 2年 88% 3年 90% ○全体 70% 1年 70% 2年 71% 3年 67% ○測定ツールにより授業改善に取り組んだ教員 100%	A	○「授業を大切にしている」「授業の内容がよくわかる」と自己評価した生徒の割合は目標を超えた。教員相互の授業参観週間や生徒による授業アンケートも授業改善に資している。また、ICT を活用した授業実践の取組が定着してきている。 「知的好奇心を喚起する授業」は目標に届かなかったが、教員は教科科目の本質や面白さを伝えることを意識して授業に取り組んでいる。 ○各教科・各学年において「学力テスト」について分析を行い、その結果が授業改善、3年生の進路指導に有効に活用されている。
ウ	新学習指導要領に対応した教育課程への円滑な移行及び土曜オープンスクールと広報の充実を図る	○「カリキュラム・マネジメント」の視点からのカリキュラム改善 ○中学生及び保護者等の土曜オープンスクールへの参加者数のべ1,000人以上 ○ホームページ更新週3回以上	○新学習指導要領に基づく新たなシラバスを年次進行で作成している。 ○7回実施、延べ1443人であった。 ○更新週1.5回程度	B	○今年度まで新課程と旧課程と併存し、複雑になっているが、成績評価は円滑に行われている。また、各教科科目においてカリキュラム・マネジメントの視点から授業やシラバスの改善に努めている。 ○オープンスクールについてはアンケート結果から参加者の満足度は高い。 ○学校ホームページは学校行事や部活動ブログなどを中心に掲載しているが、更新は週1.5回程度に止まった。広報の充実により努める必要がある。
エ	低学年からの高い志の育成に努め、進路実現を図る	○進路指導が適切に行われている 80%以上 ○入らなければならない大学を見つけた生徒の割合 80%以上	○全体 93% 1年 95% 2年 96% 3年 89% ○全体 69% 1年 59% 2年 68% 3年 82%	B	○進路講演会をはじめ、多くの事業は新型コロナウイルス感染症以前の方方式で実施でき、より効果的なものとなり、本物・実物の持つ力が再認識された。 ○入らなければならない大学を見つけたのは全体は 69%であったが、学年進捗とともに増え、3年では 80%を超えており、成果は着実に出ている。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
オ	学校行事や部活動に主体的に参加し活動するとともに、社会に貢献する	○学校行事や部活動に積極的に取り組む生徒 85%以上 ○1部活1社会貢献活動100%	○行事90% 1年94% 2年91% 3年85% ○部活87% 1年95% 2年86% 3年80% ○13の部活動で実施	B	○生徒は学校行事や部活動に積極的に参加し、充実した生活を送っている。 ○新型コロナウイルス感染症の5類引き下げ以降は概ね制限無しとなった。 学校行事等はノウハウの継承も心配されたが、円滑に通常実施できた。 ○100%の目標には至らないが、5類引き下げ以降、社会貢献活動に取り組む部活動は増えている。
カ	読書習慣の定着と読書量の増大、図書館利用の推進を図る	○朝の読書週間 年2回 ○図書館開放 年300日以上	○6月と11月の2回、朝読書週間を実施できた。 ○図書館開放は年303日となる見込み。	A	○6月と11月に朝の読書週間（毎朝25分の読書、各10日間）を実施でき、概ね好評であった。 ○図書館開放を支える図書館ボランティアを対象とする図書館研修を実施した。（明治大学和泉図書館（杉並区）、新聞博物館（横浜市）） ○1,2年生はLHRで読書会を実施した。各種広報紙やPOPで更に読書への関心・意欲を高めた。
キ	生徒及び職員が心身ともに健康で過ごすことができる校内環境を整備する	○健康観察を通しての情報共有 ○校内情報交換会 学期1回以上 ○学習環境の美化に努める生徒の育成 ○安全点検 学期1回	○毎日の健康観察表を通し担任や関係職員と情報共有できた。 ○校内情報交換会を2か月に1回程度実施した。 ○全体76% 1年77% 2年74% 3年76% ○安全点検を年2回実施した。	A	○健康観察の結果は毎日集約され、管理職を含む関係者に回覧された。感染症に関わる情報等は、管理職及び養護教員に集約され、適切に対処することができた。 ○学期2回程度の校内情報交換会に加え、関係外部機関との連携について学ぶ機会を設けた。複雑な問題を抱える生徒も増加しており、スクールソーシャルワーカー等の専門家と連携をさらに深める必要がある。 ○生徒の美化意識は年々向上している（昨年75%、一昨年73%）。改修されたトイレは清潔に維持されている。必要な清掃用具の更新等の清掃環境を整えることができた。
ク	教職員の校内外の研修を充実させる	○「グラデュエーション・ポリシー」を踏まえた授業改善に向けた研修機会の充実 ○授業参観週間 年2回	○「総合的な探究の時間」における発問の仕方や「心理的安全性」についての研修を実施した。 ○年2回、教科、学年を問わず授業参加した。	A	○「総合的な探究の時間」において生徒の主体的な学びを促す問いかけの手法を演習で学び、「主体的な学びや物事を多角的総合的に判断できる」ことに資する指導に活かすことができた。 また、「心理的安全性」の高い集団づくりの実践に向け、共通認識、情報共有を図ることができた。 ○教員相互の授業参観週間を4月と9月に実施し、学年、教科を問わず参観し、情報交換することで授業改善の意識がより高まった。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ケ	校内外のプログラムや外部人材の活用を通して、グローバルな視野の育成及び国際交流を推進する	○各種プログラム参加者の増加と意識の向上 ○参加生徒、教職員の視野の拡大と他生徒への波及効果	○グローバルスタディーズ・プログラムの実施、PDA ディベート大会に参加した。 ○国や県が主催する留学等へ参加した。 ○外国籍の大学教員による国際関係講座を実施した。 ○グローバル留学ガイダンスを実施した。	A	○グローバルスタディーズ・プログラムは 17 人が参加し、80%以上は大変良かったと評価している。 ○PDA 即興型ディベート大会や HPDU ディベート大会等に参加し、生徒はよい刺激を受けた。 ○トビタテ留学 JAPAN が再開され、第 8 期のマイ探究コースで 1 名採用され、カナダに 1 か月の短期留学をした。また、県のモンゴル国高校生総合交流事業に 1 名採用された。両名は全校生徒に海外体験発表を行った。他にも海外研修参加者による任意参加の報告会を年 4 回実施した。 ○外国籍の大学教員による国際関係講座を英語で実施し、グローバルな視野を広げた。 ○ISA による高校留学と海外大学進学ガイダンスを行い、進路選択の視野を広げる機会となった。
コ	「学校における働き方改革」に組織的に取り組む	○行事・業務の意義や必要性を見直し、整理・精選を図る。 ○産業医への勤務状況報告と指導助言の実施 毎月	○学校行事や部活動の在り方などの見直しを進めた。 ○採点ソフトを導入し、業務を軽減した。 ○時間外が多い職員に管理職面談を実施した。	A	○意義や必要性など多角的に検討し、複数の学校行事を廃止したり、テストの回数を減らしたりした。部活動については来年度から任意加入とし、また 2 つの部活動の活動の状況などに鑑み同好会降格や廃部を決めた。 ○採点ソフトを試行し、業務の軽減が認められたので導入することとした。 ○時間外勤務が月 80 時間を超えた職員には声掛けや、必要に応じて管理職面談を実施し、自身の働き方を見直す機会とした。

※「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツール：本校においては「学力テスト」

(2) 令和 6 年度取組目標・達成方法・成果目標

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	基本的生活習慣を確立し、授業・部活動・家庭学習に主体的に取り組む生徒を育成する。	○初期指導及び日常的・継続的な指導の実施 ○適切な睡眠時間の確保、朝食の摂取など、規則正しい生活習慣の確立のために必要な事項の継続的な指導	○「規則正しい生活（生活リズムを確立）している」と自己評価する生徒 80%以上 ○「朝食を食べている」生徒 90%以上	生徒課 保健厚生課 各学年

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
イ	「主體的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、知的好奇心や探究心を喚起する。	○ICTを活用した授業実践 ○理解を深めるために、対話や振り返りの機会を充実 ○教員相互による授業参観 ○生徒による授業アンケート ○「高校生のための学びの基礎診断」測定ツール（※）の活用による的確な学力把握と指導の改善 ○新学習指導要領に基づくシラバス作成及び実施 ○3観点に基づく学習評価の実施	○授業を大切にしている生徒、主体的に学ぶ生徒の増加 ○「授業の内容がよくわかる」、「知的好奇心を喚起する授業が行われている」と自己評価する生徒 80%以上 ○測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組む教員 90%以上 ○3学年分のシラバスの完成及び実施 ○3観点に基づく学習評価の実施率 100%	教務課 研修企画課 情報処理課 各教科
ウ	進路意識の高揚及び高い進路目標の達成を目指し、きめ細かな進路指導を推進する。	○進路講演会、大学訪問等の進路行事の実施 ○「キャリア・デザイン・ツアー」による印高の精神の涵養 ○進路だより等を通じた定期的な進路情報の提供と意識付け	○進路行事実施後の進路意識の向上 ○キャリア・デザイン・ツアーの参加者の進路意識の向上 90%以上 ○入らなければならない大学を見つけた生徒 80%以上	進路課 総務課
エ	生きる力や豊かな感性を培うため、部活動、特別活動等の充実に努めるとともに、社会に貢献しようとする姿勢を育成する。	○生徒会行事、学校行事の内容の充実 ○生徒主体の部活動の推進 ○部活動等を通じた社会貢献活動の実施 ○常日頃からの挨拶の励行	○部活動、特別活動等に積極的に取り組んでいる生徒 80%以上 ○部活動等を通じて社会貢献活動を行った生徒 80%以上 ○「挨拶ができています」と自己評価する生徒 80%以上	生徒課 各部顧問
オ	校内外のプログラムや外部人材の活用、探究活動を通して、主体性や探究心、グローバルな視野、リーダーシップの育成等に努める。	○国、県の事業を中心とする各種プログラムの積極的な活用 ○各方面の専門人材による講演等の企画・実施 ○「総合的な探究の時間」での探究活動における外部人材の活用 ○「グローバル・スタディーズ・プログラム」の実施	○各種プログラム参加者の増加と意識の向上 ○各種講演等への参加生徒の増加と意識の向上 ○探究活動に関わる外部人材の新規開拓 ○探究活動の満足度の向上 ○「グローバル・スタディーズ・プログラム」への参加生徒の満足度の向上	研修企画課 進路課
カ	心豊かな人生の実現に資する読書環境の整備に努め、図書館利用の推進を図る。	○読書週間の実施 ○LHRでの読書会の実施 ○図書館ボランティアを募り、放課後・週休日に図書館を開放	○朝の読書週間 年2回 ○LHRでの読書会 年1回 ○図書館開放日 年間300日以上	図書課
キ	生徒が心身ともに健康に過ごすことができ、生徒の成長・発達を支えることができる教育環境を整備する。	○朝の健康観察 ○不安や悩みを抱える生徒の支援（スクールカウンセラーの活用） ○日常の清掃活動 ○施設設備の定期的な安全点検と必要な修繕等 ○施設設備の充実	○健康観察を通しての情報共有 ○校内情報交換会 学期1回以上 ○学習環境の美化に努める生徒の育成 ○安全点検 学期1回 ○必要な修繕等の実施 ○施設設備の整備・充実	教育相談室 保健厚生課 事務室

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ク	高い資質・能力を備えた教職員集団であるべく、常に研究・修養に努める。	○自己の資質向上のために教員各自が設定する研修の実施 ○センター定期訪問を活用した全体研修の実施 ○授業参観週間の実施 ○職員会議、打合せ等の時間を使用した不祥事根絶研修の実施	○教員各自が設定した研修の実施 100% ○センター定期訪問により授業改善の意識が高まった教員 90%以上 ○授業参観週間 年2回 ○不祥事根絶研修 毎月	研修企画課 管理職 全員
ケ	生徒・保護者及び県民から信頼される学校づくりに努めるとともに、学校の情報、魅力を積極的に発信する。	○土曜オープンスクールの実施及び中学生・保護者への公開 ○ホームページによる広報、情報発信の充実 ○適切な会計処理の実施 ○適切な勤務サービス管理の実施	○中学生及び保護者等の土曜オープンスクールへの参加者数のべ1,200人以上 ○ホームページ更新 週3回以上 ○不適切な会計処理 0件 ○会計及び勤務サービスに関する職員研修の実施年1回以上	総務課 管理職 事務室
コ	「学校における働き方改革」に組織的に取り組む。	○行事の意義確認、精選 ○年間行事予定の見直し ○ICTの効果的な活用 ○職員安全衛生委員会の実施 ○在校等時間の適切な管理と時間外勤務の多い職員への面談実施 ○職員の健康状態、時間外勤務の状況によち、健康管理医との面談を実施	○行事の意義や必要性を確認し、必要に応じて行事を精選 ○ICTの活用により業務改善が図られる ○職員安全衛生委員会の実施 毎月 ○時間外勤務が月80時間を超える職員への管理職面談の実施 ○必要な職員について健康管理医との面談を実施	管理職 全員

※「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツール：本校においては「学力テスト」

(定時制)

(1) 令和5年度の取組目標への評価及び成果と課題

- ※ 評価基準
- A：十分目標を達成することができた
 - B：おおむね目標を達成することができた
 - C：あまり目標を達成することができなかった
 - D：ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	学校・保護者・社会が協力を生み出す環境を作る。	・教員が生徒個々の情報を把握することで、指導の足並みを揃える。 ・生徒との二者面談は100%、保護者との三者面談は90%以上実施する。 ・HPの更新を月1回以上実施する。 ・家庭で保護者と会話ができ、生徒が増加する。 ・企業訪問を1回以上行い、情報共有と生徒理解に活用する。 ・社会性、対人関係能力が高まり、基礎学力が向上する。	・日ごろから職員間の生徒に関する情報交換は活発に行われた。 ・生徒との二者面談は実施率100%、三者面談も1学期終了時中心に100%実施した。 ・学校行事を中心に、学校HPを更新し、本校教育活動を周知した。 ・家庭で保護者と会話ができ、生徒の割合は約51%であり昨年とほぼ同じであった。 ・進路指導の一環として企業訪問を適切に実施した。 ・通級による指導は5人、始業前の学習支援は10人以上、生徒の特性や学力など個に応じた指導を実践した。	A	・2カ月に1回、生徒情報交換会を実施した。日頃より保護者との情報交換、連携を実施している。 ・二者面談は担任の負担が大きい学年があるため、教員全員で分担ができた良いと感じる。 ・今年度より働き方改革を推進する観点で、全生徒対象の三者面談を1学期のみに変更・改善した。担任判断で必要に応じて保護者と面談している。 ・学校行事や日常の学校生活で生徒の活躍する様子をHPで紹介した。今後は学校行事、部活動など生徒の活動記録を事前にまとめ、1週間以内に投稿する。 ・体育祭には15名以上、映画観賞会には2名の保護者が参加。今後の協力体制の構築につなげたい。 ・企業訪問を例年以上に実施し、職場との連携ができた。 ・通級担当と関係職員が連携し、生徒が学校に馴染める工夫や支援を行い、良い効果を得ている。 ・学習支援について、基礎基本の定着と授業への意欲的参加を手助けすることを目的としている。 ・生徒のやる気をいかに引き出すが今後の課題である。 ・学年を横断して生徒同士で教え合う時間ができたら、社会性、対人関係能力が高まり、基礎学力が向上すると考える。
イ	わかりやすい授業の展開により、基礎学力を定着を図る。	・学ぶことの楽しさを感じ、粘り強く努力する姿勢を身につける。授業がわかると回答する生徒が70%以上になる。 ・漢字テストにおいて全員が2回以上合格する。 ・年度当初にくらべて、基礎学力が向上したと実感できる生徒が80%以上になる。 ・自らが課題を設定し、情報収集・探究・発表することで、物事に対する視野を広げる。 ・生徒の学習意欲が向上し、主体的に授業に参加している生徒が80%以上になる。 ・授業に興味・関心を持ち取り組んでいる生徒が80%以上になる。	・授業アンケートで「授業はわかりやすく興味を持てる内容である」という質問に、あてはまる・大体あてはまると答えた生徒は96.1%だった。 ・一回も合格しなかった生徒は全体の約30%で、70%の生徒が1回以上合格することができた。 ・総合的な探究の時間において各自のテーマの課題解決や調査を行い、視野を広げた。 ・学校生活振り返りアンケートの「生徒が発言したり考えたりする時間がある」で、あてはまる・大体あてはまると答えた生徒は95.2%だった。	B	・「授業がわかると回答する生徒を70%以上」の目標を達成できた。 ・漢字テストに関する練習プリントを生徒に配布する工夫が必要。 ・授業内容についていけない生徒もいるので、より丁寧な対応を心掛けた。 ・Google Classroomを授業や探究で活用している。ICT活用をすると生徒の反応は良好であり、今後の授業で有効に活用することが大切である。 ・教員の工夫（ICT活用、教材選択、目標設定など）が生徒の授業への興味関心を助長させている。

ウ	言葉を大切に する姿勢と 自分の行 動に責任を 持つ姿勢を 育み、社会 性を醸成す る。	・場に応じた適切な言葉遣い ができ、コミュニケーション を通して、良好な人間関 係を築くことができる。 ・スマホ等の正しい使用法や 主権者としての意識が高ま る。 ・場に応じた態度やマナーな ど協調性を育み、学校生 活、社会生活で活用でき る。 ・学校行事の意義と自分の役 割を認識し、主体的に活動 することで、自己肯定感・ 自己有用感が高まる。 ・自己理解を深め、生徒が互 いの意見や行動を認め合 い、責任をもった行動がで きる。	・体育祭や生徒会行事で他 学年との交流を図ること で、学年を越えた人間関 係を築くことができた。 ・スマホ講座を新規行事と して実施し、主権者教育 講座を行うことで主権者 としての意識は高まった。 ・体育祭や生徒会行事などの 学校行事を通して、学年 を越えた交流が生徒の社 会性や対人関係能力を高 める機会となった。 ・生徒の役割を増やすことで 自己肯定感・自己有用感 が高め、行事を運営して いる生徒会役員以外の生 徒も協力して行事を行っ た。 ・生徒生活体験発表大会に おいて、全ての生徒が人 前で発表をするという場 を設けた。	A	・行事外でも他学年同士で交流をして いる場面があった。学校行事を通じ て生徒が変容できるよう継続的な指 導を重ねていく。 ・今年度は SNS 利用及びマナー向上を 目的とした情報モラル講座を実施し た。情報モラル向上は大切なので次 年度も実施予定である。 ・体育祭ではほとんど全員の生徒に役 割があるなど、学校行事を上手に活 用して、生徒が運営等に主体的に関 わる態度を養うことが今後も必要で ある ・講演や講座を通して自己理解を促す ことができた。また、意見交換をす る中で互いの考えを認め、相手を思 いやる発言ができるようになったこ とは大きな成果である。 ・ペットボトルキャップ回収を企画す ることで、1人1人が学校に関わろ うとする意欲を持たせる機会を作 ることができた。
エ	年次ごとの 体系的なキ ャリア教育 を推進す る。	・年次ごとの段階的なキャリ ア教育により、職業観・勤 労観を養う。 ・自己を振り返り、見通しを 立てることで成長を実感 し、進路目標が明確にな る。 ・進路意識の向上とともに、 希望進路の実現率 100%を 達成する。 ・進路実現に向けた意識を高 め、行動に繋げることで できる生徒数が増加する。 ・ハローワーク等、外部機関 との連携を行い、計画的に 指導する。 ・アルバイトによる就労率 80%以上となる。	・進路学習日や進路のしお りを活用してキャリア教 育を実施できた。 ・1～3年生は夏休みの課 題として、オープンキャン パスやボランティアの 参加、職業調べ、自身の 進路に向けた活動をし た。 ・希望進路の実現率 100%。 ・就職、入学試験前には必 ず見学、オープンキャン パスに行っていた。 ・ハローワークや障害者職 業センターで職業評価を 行った。 ・アルバイト等の就労率 80%以上であった。	A	・入学から卒業までを見据えた計画的 なキャリア教育を目指し、進路担当 を中心に実践し、検証や改善を重ね ている。 ・1,2 年生のインターンシップを実施 できるようにしたい。 ・各活動の振り返りをキャリアパスポ ートとして役立てたい。 ・特性や障害を持っている生徒につい ては、行政や外部専門機関と連携 し、保護者を含めた支援が必要であ る。 ・上級生のアルバイト状況や自分に合 っているアルバイトの探し方、履 歴書の書き方を指導する機会を持 ちたい。

オ	生徒・教職員の心身の健康の保持、増進を図る。	・生徒及び教員の交通事故0件を達成する。 ・校内外における地震、火災等の際、避難方法を生徒・職員が完全に理解する。 ・薬物や飲酒、喫煙など身体的影響に関する理解率が向上する。 ・話しやすい、相談しやすい雰囲気を感じる生徒数が増加する。 ・いじめや体罰を許さない環境にし、いじめの早期発見に努め、いじめによる生徒指導件数0件を達成する。 ・心身の健康を保持させ、欠席、遅刻日数が減少する。 ・発達段階や偏り、成育歴などの多様性に応じた指導・支援の充実により、早期対応・早期解決を図る	・生徒の自転車事故が1件あった。 ・年間2回の防災訓練を行い、特に2学期当初の防災訓練では避難所シミュレーションを行った。 ・薬剤師による薬学講座を1学期末に実施した。 ・定期的な面談だけでなく生徒の状況に応じて、教員からの積極的な声掛けや授業後の面接を行い生徒理解の一助とした。 ・いじめ件数は0件。振り返りアンケートでは他人への誹謗中傷を見たり聞いたりした件数も0件であった。 ・インフルエンザによる出席停止はあったが、遅刻は学期ごとに1回程度。欠席は1日のみ。 ・週2回の通級指導や授業や定期試験における個別の配慮を実施するなど生徒一人一人に応じた支援や配慮を実施した。	B	・交通安全教室の実施など生徒および職員に交通安全と交通マナー向上を継続的に指導する。 ・自転車通学者が半数を占める中で、より交通安全への意識を高める必要がある。 ・地震、火事以外の災害を想定した訓練も検討したい。 ・生徒一人ひとりへの観察と対話を重視し、教職員が連携して生徒の心の教育に取り組んでいく。 ・命や健康の大切さ、他人の気持ちに寄り添うこと、個人の確立と集団の中における生き方や達成感を引き続き指導していく。 ・心身の健康を維持できず、欠席を続ける生徒が見られた。 ・多様性に応じた指導・支援を行うために、担当以外の教員も講座を受講することも必要。
カ	業務改善を進め、職員が働きやすい環境への改革を推進する。	・行事のねらいについて、実施方法を変更もしくは廃止し、行事の精選を図る。 ・働きやすい、意欲的に働ける環境である。 ・業務に支障がない場合は、積極的に休暇を取得する。また、研修等への参加とコンプライアンスの徹底を図る。	・昨年度の行事後アンケートを参考にして、改善しながら行事を運営している。 ・前期、後期での校内研修会を実施。今回の研修会ではセンター等の研修内容の大切な部分や面白い部分だけ短時間で共有することができるとの有益だった。	B	・各行事で生徒・職員アンケートを行い、改善できることは改善することに努めている。 ・業務の平準化を含め、組織として協力しお互いを高め合えるよう業務に取り組んでいる。 ・職員の間関係や家庭環境・健康状態等に配慮し、休暇取得の促進や労働時間の管理を行い、誰にとっても働きやすい職場を目指す。

(2) 令和6年度を取組目標・達成方法・成果目標

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	生徒の実態を踏まえ、一人一人に応じたあたたかみのある教育活動を推進する。	・定期的に情報交換会を実施し、教職員が生徒の情報を共有する。 ・1学期終了時においては三者面談を行う。また、必要に応じて生徒の学校での様子を連絡するなどして、保護者との関係を密にする。 ・学校HPにより、学校の様子を保護者等に伝える。 ・学校行事や生徒情報の共有など保護者との連絡を密に行い、より良い連携を図る。 ・生徒の働く企業（アルバイト先等）を訪問し、情報の交換・共有を行う。 ・通級指導や学習支援を通して、一人一人に応じた支援を行う。	・教員が生徒個々の情報を把握することで、指導の足並みを揃える。 ・生徒との二者面談は100%、保護者との三者面談は90%以上実施する。 ・HPの更新を月1回以上実施する。 ・家庭で保護者と会話ができた生徒が増加する。 ・企業訪問を1回以上行い、情報共有と生徒理解に活用する。 ・社会性、対人関係能力が高まり、基礎学力が向上する。	全職員

イ	多様な学習活動を設定し、基礎的・基本的な学力の定着と活用できる能力を育成する。	・少人数集団、T・T 授業、個別指導等の実施により、個々の学びに適応した指導を行う。 ・目標を掲げて年間 5 回の漢字コンクールを実施する。 ・「高校生のための学びの基礎診断」の測定ツール及び 1 年生においては学校設定科目「印高基礎」の時間を活用し、基礎学力の定着を図り、指導の検証、改善に結びつける。 ・「総合的な探究の時間」を通して、探究活動（探究の過程）を充実させる。 ・授業改善・学習改善に取り組み、生徒が主体的に学習する仕掛けを実践する。 ・生活に即した身近な課題を選んで教材を作成するなど、全ての教科で ICT 機器を活用し、生徒の興味・関心を引き出す。	・学ぶことの楽しさを感じ、粘り強く努力する姿勢を身につける。授業がわかると回答する生徒が 70%以上になる。 ・漢字テストについて、全員が 1 回以上合格する。 ・年度当初にくらべて、基礎学力が向上したと実感できる生徒が 80%以上になる。 ・自らが課題を設定し、情報収集・探究・発表することで、物事に対する視野を広げる。 ・生徒の学習意欲が向上し、主体的に授業に参加している生徒が 80%以上になる。 ・授業に興味・関心を持ち取り組んでいる生徒が 80%以上になる。	教務課 ICT 担当 (全職員)
ウ	授業や学校行事などの教育活動を通して、自己理解を深め、協調性を育む。	・挨拶や言葉を大切にし、場に応じた適切な言葉遣いによるコミュニケーションの指導を推進する。 ・講演会や生徒集会において、情報モラル講座や主権者教育講座を実施する。 ・修学旅行、映画鑑賞会、演劇鑑賞会、予餞会等を通して、社会的マナーを育成する。 ・体育大会、生徒会行事、生徒生活体験発表大会等の異学年交流の機会において、生徒一人一人が活躍する場を設定する。 ・1 年生において、ソーシャルスキルトレーニング講座を年に複数回実施する。	・場に応じた適切な言葉遣いができ、コミュニケーションを通して、良好な人間関係を築くことができる。 ・スマホ等の正しい使用法を理解し、主権者としての意識を高める。 ・場に応じた態度やマナーなど協調性を育み、学校生活、社会生活で活用できる。 ・学校行事の意義と自分の役割を認識し、主体的に活動することで、自己肯定感・自己有用感が高まる。 ・自己理解を深め、生徒が互いの意見や行動を認め合い、責任をもった行動ができる。	生徒課 人権担当 特別活動担当 (全職員)
エ	社会的自立に向け、望ましい職業観・勤労観を育成し、進路実現を図る。	・体系的なキャリア教育の実施のため、年間指導計画と「進路のしおり」を活用する。 ・早い段階から進路を意識させるために、全学年を対象としたキャリア教育講座などを実施し、自己の在り方を模索する。	・年次ごとの段階的なキャリア教育により、職業観・勤労観を養う。 ・自己を振り返り、見通しを立てることで成長を実感し、進路目標が明確になる。	進路担当 教務課 (全職員)

		・進路目標を見据えた学校生活に関する振り返りを各学期に実施し、進路意識の向上を図る。 ・年間２回、外部機関と連携した進路学習日、進路講演会を実施する。 ・ハローワークやジョブステーションなど、外部機関との連携を密に就労を支援する。 ・職業体験を推進し、在学中の就労を体験する。	・進路意識の向上とともに、希望進路の実現率100%を達成する。 ・進路実現に向けた意識を高め、行動に繋げることでできる生徒数が増加する。 ・ハローワーク等、外部機関との連携を行い、計画的に指導する。 ・アルバイトによる就労率80%以上となる。	
オ	生徒の心身の健康や安全に留意した学習環境の充実に努める。	・交通安全教室、グッドマナー教室を実施し、安全意識の啓発を図る。 ・防災訓練、K Y T（危険予知トレーニング）等の防災行事を充実させる。 ・警察署、学校薬剤師を講師とする薬学講座を実施する。 ・生徒相談体制として、新入生面談、放課後相談など定期的な面談などの充実を図る。 ・日頃から生徒に対しての声かけを意識的にを行い、生徒観察や言動に注意を払う。 ・健康な生活を送ることの大切さを伝え、生活習慣を確立することで、欠席、遅刻日数を減少する。 ・多様な課題に応じて、早期に外部関係機関（ＳＣ、ＳＳＷ等）との連携や支援体制サポート事業を活用し対応する。	・生徒及び教員の交通事故０件を達成する。 ・校内外における地震、火災等の際、避難方法を生徒・職員が完全に理解する。 ・薬物や飲酒、喫煙など身体的影響に関する理解率が向上する。 ・話しやすい、相談しやすい雰囲気とを感じる生徒数が増加する。 ・いじめや体罰を許さない環境にすることで、いじめの早期発見に努め、いじめによる生徒指導件数０件を達成する。 ・心身の健康を保持させることで欠席、遅刻日数が減少する。 ・発達段階や偏り、成育歴などの多様性に応じた指導・支援の充実により、早期対応・早期解決を図る。	交通担当 防災担当 教育相談 養護教諭 (全職員)
カ	「働き方改革」とコンプライアンスの徹底を推進し、働きやすい環境を整える。	・行事のねらいを整理し、行事ごとに振り返り及び効果の検証を行い、見直しに役立てる。 ・職員間の会話を増やし、風通しの良い環境をつくる。 ・管理職による積極的な休暇取得及び教職員の資質向上とコンプライアンスの徹底を呼びかける。	・行事の実施方法の変更もしくは行事自体の廃止を検討しつつ、行事の精選を図る。 ・働きやすい、意欲的に働ける環境である。 ・業務に支障がない場合は、積極的に休暇を取得する。また、研修等への参加とコンプライアンスの徹底を図る。	管理職 (全職員)

4 監査対象期間における特色ある取組

(全日制)

年度	取 組 概 要	成果及び課題
5 年 度	・年間17回の土曜オープンスクール（65分授業×3）を実施した。（内7回は中学校生徒・保護者に公開、職員は振替休暇あり） ・8時登校、15時5分授業終了、19時生徒完全下校の日課設定により1日を「授業」「部活動」「家庭学習」にバランスよく分割した。	・生徒の学習や生活のリズムを守るとともに、土曜授業により、平日放課後の生徒の活動時間を確保できた。また、公開した7回については中学校生徒・保護者等に本校を正しく理解してもらうよい機会となり、参加者の満足度も高い。参加希望者が多いため、参加者枠を増やしてはいるが、希望日の参加とならないことがある。 ・一般的な高校に比べ早い登校時間、65分授業による効率的な授業時間確保、19：00完全下校による家庭学習時間の保障により、生徒は授業、部活動、家庭学習の3両立が確保できている。
	・登校時、職員が毎日正門と通用門に立ち、交通指導を兼ねて、挨拶などの声かけを行った。	・生徒と職員の間でコミュニケーションがとれ、良好な関係を築くことができ、交通安全や遅刻者数の減少など、生徒指導にも好影響を与えている。実施は勤務時間外にならざるを得ない。
	・5月15日（月）、1年生を対象に東京工業大学の室田教授を招いて、リベラルアーツ講演会を行い、これからの時代の学びとは何かについて学んだ	・文系・理系の枠組みにこだわらない、自発的学習についての講演を聞き、受け身の「勉強」から主体的な「学び」へのパラダイム転換の必要性について意識することができた。
	・6月20日（火）に静岡市民文化会館にてジャーナリストの八牧浩行氏による「激動を追って50年～ニュースの裏を読む～若い世代に期待すること」を演題とする教育講演会を開催した。10月27日（金）には、12会場に分かれて、各界で活躍する講師12人による進路講演会を開催した。	・高校時代の自身の体験から、食べ物の食べ方を変えると人生が変わり、健康を守ることを生徒に親身に話され、生徒はストレス対処や体調管理に大いに参考となった。 ・多様な専門分野で活躍している卒業生から、直接仕事の内容や経験について話を聞くことにより、職業についての具体的な知識を得ると同時に、広い視野に立って職業選択・進路決定を行う機会となった。
	・夏休み5日間外国人学生と交流して英語力を伸ばすグローバル・スタディーズプログラムト研修(清水東等の生徒と合同)を行った。 ・PDA高校生即興型ディベート大会に登録し、東海大会に出場した。（オンライン開催）	・グローバル・スタディーズプログラムト研修には17人の生徒が参加し、外国人留学生や他校生徒との交流、体験を通して、ツールとしての英語を積極的な活用する姿勢や意義を学んだ。 ・全国のトップクラスの英語ディベート部が集う中、有志チームは大いに健闘した。生徒交流会等もあり、充実した時間を過ごした。ディベート指導にあたる英語科教員に負担感はある。
	・静岡市やNPOと連携し、8月に生徒が法律事務所、地元企業等へ職業人インタビューを行った。	・生徒は各自の興味関心や問題意識に基づいてインタビューに行き、静岡の企業等の魅力を再発見した。

・夏休みの8月24日（木）・25日（金）に静岡キャリアデザインツアーを1，2年生の希望者対象68人に実施した。	・東京大学で行われている教育や研究を大学教員の講義や大学生との交流を通じて学び、具体的な大学像を形成し進路選択の一助となった。併せて、金融庁訪問や医師講話を行った。
・10月27日（金）には、1，2年生対象に12会場に分かれて、各界で活躍する講師12人による進路講演会を開催した。	・多様な専門分野で活躍している卒業生から、直接仕事の内容や経験について話を聞くことにより、職業についての具体的な知識を得ると同時に、広い視野に立って職業選択・進路決定を行う機会となった。
・12月1日（金）の午後、2年生の医学部希望者28名で浜松医科大学を訪問した。医学部の現状についての講義と先端研修施設の見学を行った。	・医学部を持つ大学を実際に訪問することで生徒は医学部進学イメージをリアリティを伴って持つことができるようになり進路意識の高揚につながった。また、併せて地域医療の重要性を学ぶ機会となった。
・12月20日（水）の放課後、1，2年生の医学部希望者対象に静岡市立病院の岩井一也氏を講師に招き、医学講座を開催した。	・生徒約30人が受講し、延命治療など生死に関わる臨床現場の第一線で活躍する医師ならではの迫力あるお話を伺い、医師の仕事の遣り甲斐と責任などを深く考える機会となった。
・1月31日（水）の放課後、希望者対象に常葉大学外国語学部准教授スティーブ・ユリック氏を講師に招き国際関係講座を開催した。	・生徒約50人が受講し、「AFRICAN-AMERICAN MUSIC」をテーマに英語による講演会を実施した。ビデオでジャズの背景にある歴史を学んだり、講師のピアノ演奏をはじめ、音楽をとおした国際理解のよい機会となった。海外の文化に対する視野が広がった講演会であった。
・1年生の総合的な探究の時間に大学生、大学院生、社会人のチューターを招き、探究活動のゼミ活動に支援いただいた。	・1年生が取り組む研究、論文作成について時宜に併せて適切な指導をいただき、生徒はよりよい研究、論文を作成することができた。また浜松医大に在学する卒業生や県立総合病院の医師の協力を得て、医療系ゼミが充実した。
・静岡銀行とNPOしずおか共育ネットが開催する「アオハルし放題」に2年生の有志が参加し、最優秀賞に選ばれた。	・静岡の新たな特産品を開発する起業コースに参加した2年生3人は、「季節のピザとピザ工房」を企画した。その後、こども対象にピザ教室を開催した。地域貢献と探究心が発揮された。
・保護者の図書館ボランティアや時間外委託職員等を活用し、新型コロナウイルス感染症対策下にある中で、週休日や祝日も含め、年間303日の開館日確保した。	・平日は19:00まで、休日も8:20～16:30まで開館し、自学自習のための環境を学校内に整えることができた。今年度は、図書館ボランティアを対象とする図書館研修（明治大学和泉図書館（杉並区）、新聞博物館（横浜市））を実施した。

6 年 度	・年間14回の土曜オープンスクール（65分授業×3）を実施した。（内6回は中学校生徒・保護者に公開、職員は勤務の振替あり） ・8時登校、15時5分授業終了、19時生徒完全下校の日課設定により1日を「授業」「部活動」「家庭学習」にバランスよく分割した。	・生徒の学習や生活のリズムを守るとともに、土曜授業により、平日放課後の生徒の活動時間を確保できた。また、公開した6回については中学校生徒・保護者等に本校を正しく理解してもらうよい機会となり、参加者の満足度も高い。また、今年度は参加人数の調整により、第一希望日の参加がなかった生徒・保護者が多かったのではと思われる。 ・一般的な高校に比べ早い登校時間、65分授業による効率的な授業時間確保、19：00完全下校による家庭学習時間の保障により、生徒は授業、部活動、家庭学習の3両立が確保できている。
	・登校時、生徒課職員が毎日正門に立ち、交通指導を兼ねて、挨拶などの声かけを行った。	・生徒と職員の間でコミュニケーションがとれ、良好な関係を築くことができ、交通安全や遅刻者数の減少など、生徒指導にも好影響を与えている。実施は勤務時間外にならざるを得ない。
	・6月13日（木）、1年生を対象に東京工業大学の室田教授を招いて、リベラルアーツ講演会を行い、これからの時代の学びとは何かについて学んだ	・文系・理系の枠組みにこだわらない、自発的学習についての講演を聞き、受け身の「勉強」から主体的な「学び」へのパラダイム転換の必要性について意識することができた。
	・6月20日（木）に静岡市民文化会館にて、大阪大学蛋白質研究所教授の原田慶恵氏による「好奇心が原動力、いろいろな経験をして進んでいこう。」を演題とする教育講演会を開催した。	・自身の研究範囲において、注目されるテーマを常に感度高く追求め、世界的にも評価されるクオリティの高い成果を挙げ続ける原田氏の姿勢が、生徒に大きな感銘を与えた。
	・8月19日（月）～23日（金）の5日間、外国人学生と交流して英語力を伸ばすグローバル・スタディーズ・プログラム研修（清水東等の生徒と合同）を行った。	・グローバル・スタディーズ・プログラム研修には22人の生徒が参加し、外国人留学生や他校生徒との交流・体験を通して、ツールとしての英語を積極的な活用する姿勢や意義を学んだ。
	・8月1日（水）に静岡市やNPOと連携し、生徒が法律事務所、地元企業等へ職業人インタビューを行った。	・生徒は各自の興味関心や問題意識に基づいてインタビューに行き、静岡の企業等の魅力を再発見した。
	・ふじのくにグローバル人材育成事業（第1期）に9名採用され（個人5名・チーム4名）、夏季休業中にアメリカ・イギリス・ニュージーランド・シンガポール・カンボジアで活動し、県の広報にも協力した（説明会発表5名、ポスター掲載1名）。	・帰国後、他の海外研修（ふじのくに・モンゴル・海外体験促進事業）参加者も含め、留学報告会を5回行った。昼休みの実施ではあったが、多くの生徒が参加し、知見を広めた。
	・夏休みの8月22日（木）・23日（金）に静岡キャリアデザインツアーを1、2年生の希望者対象74人に実施した。	・東京工業大学・東京大学で行われている教育や研究を大学教員の講義や大学生との交流を通じて学び、進路選択の一助となった。併せて、アジア開発銀行・住友商事からの業務説明・出張授業等を受けた。
	・10月25日（金）に、1・2年生を対象に、12会場に分かれて各界で活躍する講師13人による進路講演会を開催した。	・多様な専門分野で活躍している卒業生から、直接仕事の内容や経験について話を聞くことにより、職業についての具体的な知識を得ると同時に、広い視野に立って職業選択・進路決定を行う機会となった。

	・11月8日（金）の午後、1・2年生の医学部希望者40名で浜松医科大学を訪問した。医学部の現状についての講義と先端研修施設の見学を行った。	・医学部を持つ大学を実際に訪問することで、生徒は医学部進学に対しリアリティを伴ってイメージすることができるようになり、進路意識の高揚につながった。また、併せて地域医療の重要性を学ぶ機会となった。
	・1年生の総合的な探究の時間に大学生、大学院生、社会人の伴走者を招き、探究活動のゼミ活動に支援いただいた。 ・DXハイスクール事業の一環として、上記探究の時間の中でDXゼミを開講した。外部人材（伴走者）に依頼し、9月後半以降の6回の探究の時間で、6名（延べ25名）の協力を得て、DXゼミ生の助言や指導をきめ細かく行っていただいた。	・県内企業人を中心として多くの方の協力を得られた。新しい分野の方にも参加していただき、コネクションが広がった。1年生が取り組む研究、論文作成について時宜に併せて適切な指導をいただき、生徒はよりよい研究、論文を作成することができた。 ・DXゼミでは一部の生徒が設定した間の分野と伴走者の職業が一致し、専門的な助言や指導を行うことができた。
	・令和7年1月26日（日）実施の「しずおか高校生探究フェスタ」に本校2年生4名が参加した。	・1年次から2年次にかけて取り組んだ「総合的な探究の時間」の研究成果を発表し、県内の他校の高校生と意見交換を行い、学び合うことができた。コンテスト部門に出場したうちの1名が、準グランプリを獲得することができた。
	・保護者の図書館ボランティアや時間外委託職員等を活用し、週休日や祝日も含め、年間295日の開館日を確保した。	・平日は19:00まで、休日も8:20～16:30まで開館し、自学自習のための環境を学校内に整えることができた。また、図書館ボランティアを対象とする図書館研修（上智大学中央図書館、東京大学本郷キャンパス）を実施した。

（定時制）

年度	取 組 概 要	成果及び課題
5 年 度	「学校・保護者・社会が協力して、生徒を育てる環境を作る。」 ・生徒との二者面談は100%、保護者との三者面談は90%以上実施する。 ・HPの更新を月1回以上実施する。 ・企業訪問を1回以上行い、情報共有と生徒理解に活用する。 ・生徒、保護者が通級指導や学習支援を活用する。	・2カ月に1回、生徒情報交換会を実施した。日頃より保護者との情報交換、連携を実施している。 ・今年度より働き方改革を推進する観点で、全生徒対象の三者面談を1学期のみに変更・改善した。担任判断で必要に応じて保護者と面談している。 ・学校行事や日常の学校生活で生徒の活躍する様子をHPで紹介した。 ・企業訪問を例年以上に実施。職場との連携ができた。 ・通級担当と関係職員が連携し、生徒が学校に馴染める工夫や支援を行い、良い効果を得ている。
	「わかりやすい授業の展開により、基礎学力の定着を図る。」 ・学ぶことの楽しさを感じ、粘り強く努力する姿勢を身につける。授業がわかると回答する生徒が70%以上になる。 ・授業に興味・関心を持ち取り組んでいる生徒が	・「授業がわかると回答する生徒を70%以上」の目標を達成できた。 ・教員の工夫（ICT活用、教材選択、目標設定など）が生徒の授業への興味関心を助長させている。 ・行事外でも他学年同士で交流をしている場面があった。学校行事を通じて生徒が変容できるよう継続的な

	80%以上になる。 「言葉を大切にする姿勢と自分の行動の責任を持つ姿勢を育み、社会性を醸成する。」 ・場に応じた態度やマナーを生活の中で活用でき、他者を認めるとともに、自分の意見を伝え、責任を持った行動ができるようになる。 ・学校行事の意義を理解し自分の役割を認識して、主体的に行事を運営することで、自己肯定感・自己有用感を高める。	指導を重ねていく。 ・講演や講座を通して自己理解を促すことができた。また、意見交換をする中で互いの考えを認め、相手を思いやる発言ができるようになったことは大きな成果である。 ・ペットボトルキャップ回収を企画することで、1人1人が学校に関わろうとする意欲を持たせる機会を作ることができた。
	「生徒・教職員の心身の健康の保持、増進を図る。」 ・発達段階や偏り、成育歴などの多様性に応じた指導・支援の充実により、早期対応・早期解決を図る	・生徒一人ひとりへの観察と対話を重視し、教職員が連携して生徒の心の教育に取り組んでいく。 ・命や健康の大切さ、他人の気持ちに寄り添うこと、個人の確立と集団の中における生き方や達成感を引き続き指導していく。
6 年 度	「生徒の実態を踏まえ、一人一人に応じたあたたかみのある教育活動を推進する。」 ・生徒との二者面談は100%、保護者との三者面談は90%以上実施する。 ・HPの更新を月1回以上実施する。 ・家庭で保護者と会話ができた生徒が増加する。 ・企業訪問を1回以上行い、情報共有と生徒理解に活用する。	・全員対象の三者面談を1学期終了時に実施した。生徒の特性や生き立ち、家庭背景を把握するうえで大変有益であった。 ・HPの移行作業を行った。新たなURLを周知するためにQRコードを活用した。 ・PTA総会には14人、体育祭には保護者と卒業生合わせて40人が参加し、学校に対する関心の高さが窺えた。 ・アルバイト就業率が56%に対し、約半数の職場に訪問することができた。生徒理解や進路指導に繋がった。
	「多様な学習活動を設定し、基礎的・基本的な学力の定着と活用できる能力を育成する。」 ・自らが課題を設定し、情報収集・探究・発表することで、物事に対する視野を広げる。 ・生徒の学習意欲が向上し、主体的に授業に参加している生徒が80%以上になる。	・総合的な探究の時間では、世界を知ろう！をテーマに興味関心に応じて7講座から1つを選択し、見聞を深めた。活動の中で協働する場面も多く、学年を超えた人間関係の構築など副次的な効果もあった。 ・心理的安全性の担保が主体的な取り組みを促進している。Google Classroomやロイロノートを活用すると生徒の反応は良好である。
	「授業や学校行事などの教育活動を通して、自己理解を深め、協調性を育む。」 ・スマホ等の正しい使用法を理解し、主権者としての意識を高める。 ・学校行事の意義と自分の役割を認識し、主体的に活動することで、自己肯定感・自己有用感が高まる。	・成人に求められる規範意識と危機回避能力について考える契機となった。また主権者教育講座と公共の授業を往還することで、政治の仕組みについて理解が深まり、実際に投票した生徒もいた。 ・学校行事の企画・運営の過程に、全生徒参加型の仕組みが設定されている。これらの行事は大変好評で、その一因として自己有用感を得られることが挙げられる。

	「生徒の心身の健康や安全に留意した学習環境の充実に努める。」 ・発達段階や偏り、成育歴などの多様性に応じた指導・支援の充実により、早期対応・早期解決を図る。	・通級指導を希望する生徒や、必要性を感じる生徒が増えている。 ・多様性に応じた支援には、外部機関との連携が不可欠である。事象に適した機関に繋げる力(機能)が求められる。人脈(連携先)の拡大にも努めたい。
--	---	--

5 教職員について

(1) 令和6年度異動状況

職 名 区 分		本 務 職 員											臨時・会計年度任用職員等							合 計			
		教 育 職 員						行 政 職 員					本 務 計	教 諭	養 護 教 諭	A L T	非 常 勤 講 師	非 常 勤 労 務 職 員	非 常 勤 嘱 託 員		臨 時 計		
		校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	主 任 実 習 助 手	小 計	事 務 長	主 幹	主 査	主 任										主 事	小 計
全 日 制	転出者				6	1		7		1	1			2	9								9
	退職者				4			4							4			4				4	8
	再任用 (退職)				3			3							3							3	
	転入者				10	1		11		1	1			2	13							13	
	新任者																	4			4	4	
	再任用 (新任)				2			2							2							2	
	差引増減				▲1			▲1							▲1							▲1	
定 時 制	転出者				2			2						2								2	
	退職者																						
	再任用 (退職)																						
	転入者				1			1						1								1	
	新任者				1			1						1								1	
	再任用 (新任)																						
	差引増減																						
合 計					▲ 1			▲ 1						▲ 1								▲ 1	

(2) 現員数（令和7年4月1日現在）

職 名 区 分		本 務 職 員											臨時・会計年度任用職員等							臨 時 計		
		教 育 職 員						行 政 職 員					教諭	養護教諭	主事	A L T	非常勤講師	非常勤労務職員	非常勤嘱託員			
		校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	主 任 実 習 助 手	小 計	事 務 長	主 幹	主 査	主 任									主 事	小 計
全 日 制	男	1		1	34			36	1	1				2	38				9	2		11
	女		1		24	1	1	27			1	2		3	30			1	1			3
	計	1	1	1	58	1	1	63	1	1	1	2		5	68			1	1	10	2	14
定 時 制	男			1	5			6					1	1	7		1			1		2
	女				3			3							3					1		1
	計			1	8			9					1	1	10		1			2		3
合 計		1	1	2	66	1	1	72	1	1	1	2	1	6	78		1	1	1	12	2	17

(3) 健康管理について

ア 職員の健康管理については、日頃から十分配慮し、定期健康診断をはじめ、生活習慣病検診、人間ドック等を必ず受診し、病気の早期発見に努めている。

また、学校医による健康相談の機会を随時設け、指導を受ける体制を整えている。

イ 職員安全衛生委員会が中心となって、校内安全点検、健康及びストレス対策等について取り組み、安全かつ健康的な職場環境の向上に努めている。

(4) 教職員の研修について
(全日制)

	5 年 度	6 年 度
研 修 の 目 的	ア 策定された「スクール・ポリシー」に則り様々な校内研修を実施し、職員の意識を高める。 イ 多様な個性を尊重し、主体的に学び、探究心をもつ生徒を育てるためのノウハウを学び、本校のスクール・ポリシー、スクールミッションの実現を図るため、授業力・学級経営力の向上を図る。併せて、レジリエンスの理解を深めるようにする。 ウ 採点支援システムの導入等、ICT活用による業務改善を推進する。また、情報インシデント防止のための研修も適宜行う。 エ 安心安全な学校生活や、不祥事根絶に向け、現状を把握し危機管理意識の向上に努める。	ア 策定された「スクール・ポリシー」に則り様々な校内研修を実施し、職員の意識を高める。 イ 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善・評価方法の研究に努め、授業力・学級経営力の向上を図る。また、多様な生徒の状況に対応するための研修を行う。 ウ ICT 活用による業務改善を引き続き推進する。GoogleClassroom・採点支援システム等の利活用が進む中で、起こり得る情報インシデントについての知識を得、確実に防止するための研修を適宜行う。 エ 安心安全な学校生活や、不祥事根絶に向け、現状を把握し危機管理意識の向上に努める。
研 修 の 内 容	ア 教育相談室による研修 ・特別な支援を必要とする生徒についての研修 ・専門の大学教員を招聘したレジリエンス研修の実施 イ 保健厚生課による研修 ・アレルギーの生徒用「エピペン」研修 ・救急法に関する研修 (AED) ウ 総務課による研修 ・校内の防災施設の確認ツアー ・地域防災課職員による防災講演会 エ 研修課及びその他の研修 ・授業参観週間 (教員相互の授業見学、年2回) ・学級経営力向上研修 (講演、グループワーク) ・溝上慎一氏を講師とする探究学習の推進に係る4校合同研修会 (沼津東、清水東、浜松北) の実施 ・総合的な探究の時間の充実に関する研修 (定期訪問、指導主事) ・「百問繚乱」導入に係る研修 ・生徒による「授業評価」と授業の振り返り ・不祥事根絶研修 - 懲戒、体罰防止、情報インシデント防止 - わいせつ行為、ハラスメント防止 - メンタルヘルス - 交通安全 (飲酒撲滅・違反防止) 他	ア 教育相談室による研修 ・アイスブレイク研修 ・特別な支援を必要とする生徒についての研修 ・精神科医による職員研修 (テーマ「思春期のこころの病」) イ 保健厚生課による研修 ・アレルギーの生徒用「エピペン」研修 ・救急法に関する研修 (AED) ウ 総務課による研修 ・校内の防災施設の確認ツアー ・自衛隊職員による防災講演会 エ 研修課及びその他の研修 ・授業参観週間 (教員相互の授業見学、年2回) ・生徒による「授業評価」と授業の振り返り (年2回) ・「効果的な ICT 活用による授業改善」研修 (定期訪問、指導主事) ・「ロイロノート」講座 (定期訪問、校内研修時) ・「百問繚乱」導入に係る研修 ・不祥事根絶研修 - 懲戒、体罰防止 - わいせつ行為、ハラスメント防止 - メンタルヘルス - 交通安全 (飲酒撲滅・違反防止) - 情報インシデント防止 (GoogleClassroom、採点支援システム)
成	ア アイスブレイク研修を通し、教員間または	ア アイスブレイク研修を通し、教員間または

果	生徒間の相互理解が深まった。 イ 防災や救急法等の研修により、生徒の安全な学校生活を守る意識を高めた。 ウ 研修企画課による授業公開、校内研修会による「授業力・学級経営力の向上」、ICT活用授業の相互参観などの研修により教科の枠を超えて効果的な授業実践の共有が進んだ。 エ 教育相談室によるレジリエンス研修では専門の大学教員の講話で理解が深まった。 オ 採点支援システム導入により業務改善に資した。また、情報インシデント防止のため、USB 管理等に対応した。 カ 各種資料等を用いた毎月の不祥事根絶研修により責任ある行動についての意識付けができた。	生徒間の相互理解が深まった。 イ 防災や救急法等の研修により、生徒の安全な学校生活を守る意識を高めた。 ウ 研修企画課による授業公開、校内研修会による「効果的な ICT 活用による授業改善」研修、「ロイロノート」講座等により、教科の枠を超えて、効果的に ICT を取り入れた授業実践の共有が進んだ。 エ 教育相談室による研修では、精神科医の講話により、心の問題を抱える生徒への対応方法等についての理解が深まった。 オ GoogleClassroom、採点支援システム利活用に際して起こり得る情報インシデント等についての理解・対策が進んだ。 カ 各種資料を用いた毎月の不祥事根絶研修により責任ある行動についての意識付けができた。
課題	ア 「一人一台端末による ICT の活用」は授業、アンケート集計、諸連絡等着実に進んでいるが、教員の習熟の程度には差があり、また情報担当教諭の負担も少なくはない。 イ 学校は個人情報に溢れており、少しの気の緩みが情報インシデントに繋がる。また、体罰やハラスメントを含め、職員個々の危機管理意識を恒常的に持ち続けることが必要である。 ウ 生徒への支援機能の充実に向けた研修は機を逸することなく行うことができ、教員の資質の向上は進んだが、今後求められている「個に応じた教育」はマンパワーの充実なしには困難である。情報担当教諭の負担軽減、部活動に係る支援の拡大、小学校等で行われている「支援員」制度の導入などの教職員の働き方改革具現化への支援を望む。	ア 「一人一台端末による ICT の活用」については、依然として教員の習熟の程度に多少の差はあるものの、多くの教員に授業・アンケート集計・諸連絡等での活用が定着してきた感があり、その特性・長所が業務の効率化に確実につながっている場面も多く見受けられるようになった。 イ ICT の利活用が進んでいく一方、起こり得る情報インシデント等への知識は十分に浸透しておらず、今後も継続して研修を実施していく必要がある。また、体罰やハラスメント等を含め、職員個々の危機管理意識を恒常的に持ち続けるための研修継続も必要である。 ウ 生徒への支援機能の充実に向けた研修は機を逸することなく行うことができ、教員の資質の向上は進んだが、今後求められている「個別最適な学びと協働的な学び」の実現は、現在の教職員定数の中では非常に困難を極めると予想される。「人員」の支援が強く望まれる。

(定時制)

	5 年 度	6 年 度
研修の目的	生徒が卒業後に目指すべき自己実現を達成することを目的として「キャリア教育の推進と展開」を昨年度に引き続き研修を行う。また、観点別学習状況の評価の適切な運用や Google Classroom など ICT 機器を用いた授業改善や業務の効率化についても研修を行う。	「ICT を活用した授業のユニバーサルデザイン化」を本年度より 3 年間かけて研修を行う。 また、令和 7 年度から新課程に完全移行するため各科目の単元計画や指導と評価の一体化の推進を図る。観点別評価は試行から 3 年が経過し、評価規準と評価の妥当性・信頼性について検証する。
研修の	ア 学校経営計画に基づく、育成すべき資質・能力の確認と ICT 機器を活用した授業改善について研修会に参加するなどした。	ア 学校経営計画に基づく、育成すべき資質・能力の確認と ICT 機器を活用した授業改善について研修会に参加するなどした。

内容	た。 イ 公開授業週間を設定し、教員の授業力向上に努めた。学期末には校内研修会を行い、職員個々が参加した研修会の内容を職員に周知・共有することで指導力の向上を図った。定期訪問では「キャリア教育の推進と展開」について総合教育センター学校支援課2名による講義、演習を行い、理解を深めた。 ウ 特別支援教育研修として、年3回の研修を行うとともに、外部講師を招き「特別支援教育講座」を実施した。 エ 観点別学習状況の評価について、各教科の3観点の評価基準、学期末における成績評価について教務課中心に全職員で議論、検証し、生徒の実態を踏まえつつ教科科目の目標を意識した評価基準を構築した。	イ 公開授業週間を設定し、教員の授業力向上に努めた。総合教育センター定期訪問では「ICTを活用した授業のユニバーサルデザイン化」について高校支援課の和田主査による講義、演習を行い、見識を深めた。 ウ 観点別評価について、評価基準と評価の妥当性・信頼性について教務課中心に全職員で検証した。 エ 特別支援教育研修として、9月、10月、11月に常葉大学教育学部から野村和代先生をお招きし、SST講座を実施した。
成果	ア 全職員がICT機器の活用し授業のポイントを可視化したり、各教科でGoogle Classroom等を活用するなど授業改善に取り組んだ。 イ 生徒が卒業後においても「自分らしく生きる」ために、最終学年だけでなく入学時からの「キャリア教育」を積み重ねることで、生徒の進路意識の高騰と卒業後の自己実現に向け、組織として継続的に指導を重ねていくことの大切さを改めて痛感した。さらに研修内の演習において職員が積極的に参加し、職員同士で意見を交換し合うこともできたので、非常に有益な研修であった。 ウ 静岡県発達障害者支援センターの強化支援事業（年3回の研修会）と特別支援学校によるセンター的機能を活用した外部講師による職員研修（特別支援教育講座）では、専門的な知識と指導方法について理解を深めることができ、本校生徒にどのような指導や支援が有効であるか考えた。 エ 観点別学習状況の評価に関し、実際の運用や評価基準について改善を行うと同時に、年間指導計画を踏まえ本校の教育活動全般を考える機会を持った。	ア 多くの職員が、Google全般やロイロノート、百問繚乱を中心にICTに関する研修を積極的に受講することにより体得することができた。ICTを授業で活用することにより、生徒の理解や意欲向上や繋がった。 イ 高校支援課の和田主査による「ICTを活用した授業のユニバーサルデザイン化」の講義では、①特別支援教育の視点を踏まえ「困り感」を持つ生徒の指導について、先生方同士の共通理解を図ること ②「困り感」を持つ生徒に対する支援方法を検討し、チームで対応することとあり職員の意識が高まりました。 ウ 令和7年度の新課程完成年度に備えて、各学年のシラバス（年間指導計画と評価基準）を作成することができた。観点別評価の妥当性について概ね良好である。 エ SST講座では、実践を通して“他者との価値観の違いに気付き折り合いを付ける方法”について学ぶことができた。
課題	ア 全教科でICT機器を活用した授業に取り組んでいるが、教員のICT機器を活用するための組織としての研修が今以上に必要である。 イ 年々、不登校や特別な支援や指導を要する生徒が増え、自立活動（通級による指導）を含めた授業改善を進めるとともに、生徒一人ひとりに適した指導をできるよう	ア 職員によりICTの活用能力に差がある。研修を重ねて活用するシーンを増やしていきたい。 イ 特別支援教育について、職員の理解の深まりを期待したい。また、通級指導や外部機関との連携などは、全職員がアクションできるようにしたい。 ウ シラバス（年間指導計画と評価基準）や観点

	に、教員の指導力向上を目指し研修する必要がある。 ウ 専門的な知識や対応が求められることから、特別支援学校や行政、医療機関など外部機関との継続的な連携が必要となる。 エ 一部の教員に過度の負担にかけないように、業務の削減、平準化を含めた全体を視野に入れた改善が必要である。学校行事や勤務時間について見直しや廃止を含めた業務改善を組織として対応、実施していくべきである。	別評価の妥当性・信頼性については、引き続き検証を重ね最適化する必要がある。 エ SST 講座のノウハウを習得し、職員が自走できる体制を構築したい。
--	---	---

6 防災対策について

- (1) 予想される南海トラフ地震や大規模災害を想定し、防災訓練等を実施している。

詳細は次のとおりである。

時期	全 日 制	定 時 制
4 月	ア 防災地区別班の編成 イ 自転車ペア（同地区への帰宅等の際、共に行動する者）の確認	ア 防災地区別班の編成 イ 防災訓練の実施
6 月	校内防災ツアーの開催・救急用物資の確認（全日制と合同で開催）	
7 月	ア 職員用危機管理マニュアルの配布 イ 職員対象の救急法・AED講習会の開催（全日制と合同で開催）	
9 月	ア 防災訓練の実施 イ 1年生を対象にした防災講演会の開催	
11 月	地域連絡防災会議の開催（全日制と合同で開催） ア 防災訓練の実施 イ 避難所シミュレーション	
12 月	防災訓練の実施	

その他、例年、地域で行う防災訓練への参加促進等を実施した。

- (2) 警戒宣言が発令され、地震等の災害により交通機関が麻痺した場合には、遠方から通学する生徒に対し、学校近隣に居住する生徒が自転車を貸出す措置を講じるようにしている。
- (3) 南海トラフ地震に関連する情報が発令された場合の生徒及び教職員の対応を危機管理マニュアルの中に定めている。

また、一次避難場所として地域住民を受け入れる場合の担当を、自衛消防組織に定めている。

7 学校開放について

地域住民のスポーツ活動を中心とした生涯学習活動の振興のために、学校運営上支障のない範囲において、体育施設の開放を実施した。

（令和 6 年度）

（令和 7 年 1 月 31 日現在）

使用目的	使用日等	使用施設	利用者数	利用者負担金
バスケットボール	主に土・日曜日 （4 日）2 時間程度	第 2 体育館	延 561 人	43,514 円
卓球	主に土曜日（4 日） 2 時間程度	卓球場	延 100 人	1,075 円
剣道	主に日曜日（3 日） 1 時間程度	剣道場	延 66 人	998 円
テニス	主に日曜日（4 日） 2 時間程度	屋内運動場	延 330 人	
水泳	夏季 2 時間程度	プール	延 1,657 人	

□□□□

事務執行の根拠法令調

項目	根 拠 法 令
1 学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第50条、第51条、第52条、第60条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立高等学校学則 高等学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令 学校教育法（第137条）
2 学校の管理・運営に関すること	地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条 第22条） 学校保健安全法（第15条 第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 社会教育法（第43条、第45条、第47条、第48条） 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県立学校処務規程 静岡県立学校授業料徴収条例 静岡県立学校授業料徴収規則 高等学校等就学支援金の支給に関する法律 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行令 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 高等学校等を中途退学した後再び高等学校等で学び直す者に対して高等学校等就学支援金の支給に関する法律 静岡県手数料徴収条例 静岡県高等学校等教育資金及び高等学校等奨学金貸与規則 高等学校定時制課程及び通信制課程教科書等購入費補助金交付要綱 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条） 夜間課程を置く高等学校における学校給食に関する法律（第3条） 高等学校定時制課程夜食費負担金取扱要綱 高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金（高等学校DX加速化推進事業）交付要綱

□□□□

学 校 施 設 の 概 要

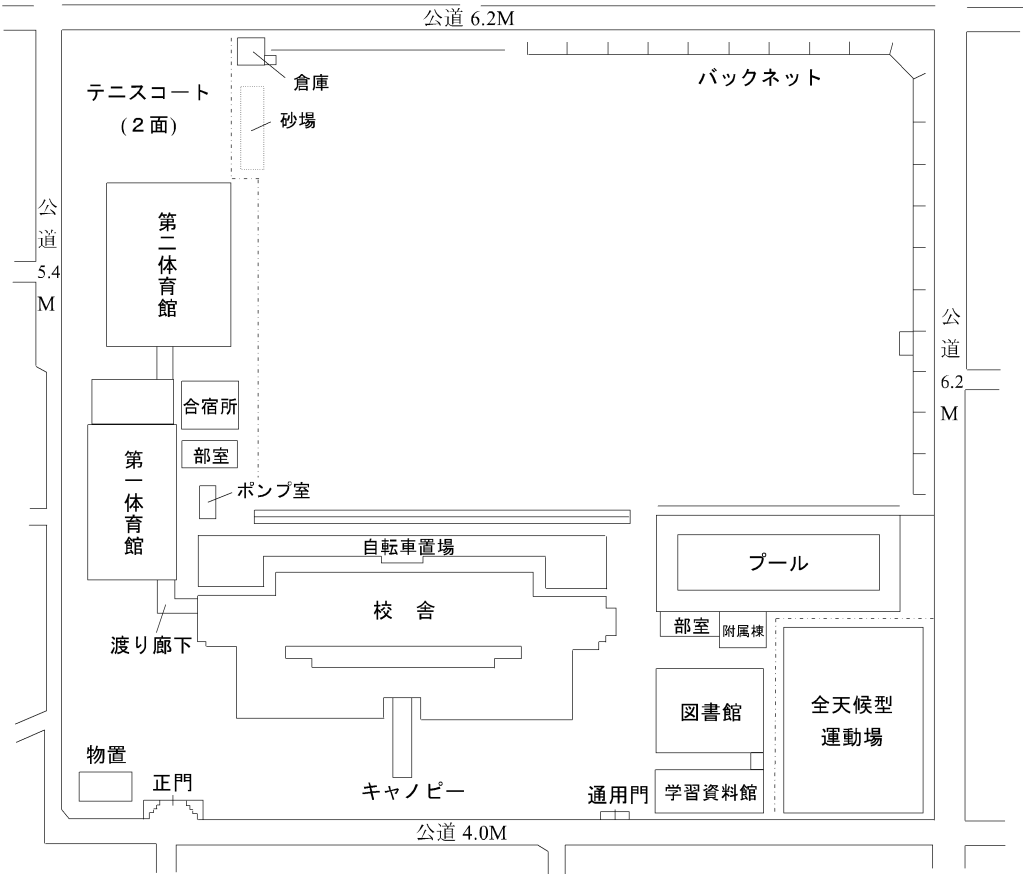
1 面積及び所有区分

(令和7年1月31日現在)

区 分		面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
			県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後 援 会 有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地		39,450.81	34,020.32	3,971.77			1,458.72	
内 訳	校 舎 敷 地	17,058.37	15,537.69	1,520.68				
	運 動 場 敷 地	21,024.44	17,114.63	2,451.09			1,458.72	
	その他の敷地	1,368.00	1,368.00					プール敷地
実 習 地								
内 訳	田							
	畑							
	茶 園							
	果 樹 園							
演 習 林								
校 舎	建 2,910.70		建 2,910.70					
	延 8,762.00		延 8,762.00					
体 育 館	建 2,278.07		建 2,278.07					
	延 3,710.81		延 3,710.81					
武 道 場								
そ の 他 の 建 物	建 3,722.29		建 3,533.62			建 188.67		
	延 5,456.79		延 5,174.52			延 282.27		
寄 宿 舎								
生 活 館								
プ ー ル		750.00						50m7コース
職 員 住 宅		戸 6	戸 6			戸		戸

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等(法面・演習林等を除く)

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
学 校	39,450.81㎡	8,762.00㎡	21,024.44㎡
県平均	45,574.48㎡	9,807.98㎡	22,506.84㎡

□□□□

在 籍 生 徒 調

(令和7年1月31日現在)

学年	学科別 区分		全日制 普通科				定時制 普通科				合 計			
			定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入 学 者		328	183	145	328	40	10	3	13	368	193	148	341
		増加						(1)		(1)		(1)		(1)
		減少		1		1				1			1	
	現 在			182	145	327		11	3	14		193	148	341
2年	入 学 者		328	193	135	328	40	8	9	17	368	201	144	345
		増加												
		減少		1	2	3		(1)	2	2 (1)		1 (1)	4	5 1
	2年時当初			192	133	325		7	7	14		199	140	339
		増加	(1)	(1)	(2)					(1)	(1)	(2)		
		減少	1	(1)	1 (1)					1	1	1 1		
	現 在		192	133	325		7	7	14	199	140	339		
3年	入 学 者		328	179	149	328	40	3	1	4	368	182	150	332
		増加		1		1						1		1
		減少		2	2	4						2	2	4
	2年時当初			178	147	325		3	1	4		181	148	329
		増加												
		減少		1 (1)	(1)	1 (2)						1 (1)	1	1 2
	3年時当初			176	146	322		3	1	4		179	147	326
		増加												
		減少		2		2						2		2
	現 在			174	146	320		3	1	4		177	147	324
4年	入 学 者						40	4	4	8	40	4	4	8
		増加												
		減少												
	2年時当初							4	4	8		4	4	8
		増加												
		減少												
	3年時当初							4	4	8		4	4	8
		増加							(1)	(1)			(1)	(1)
		減少						1	1	2		1	1	2
	4年時当初							3	4	7				7
		増加												
減少														
現 在						3		4	7	3		4	7	
合 計			984	548	424	972	160	24	15	39	1,144	572	439	1,011

□□□□

入学志願者及び入学者数調

(全日制)

区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学 科 別		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
生徒定員 (A)		280	320	320	320	320
募集者数 (B)		280	320	320	320	320
志願者数	男	208 (0)	213 (0)	210 (0)	205 (0)	223 (0)
	女	151 (0)	171 (0)	155 (0)	173 (0)	140 (0)
	計 (C)	359 (0)	384 (0)	365 (0)	378 (0)	363 (0)
受検者数	男	208 (0)	208 (0)	209 (0)	205 (0)	223 (0)
	女	151 (0)	171 (0)	155 (0)	173 (0)	139 (0)
	計 (D)	359 (0)	379 (0)	364 (0)	378 (0)	362 (0)
合格者数	男	173 (0)	179 (0)	193 (0)	183 (0)	213 (0)
	女	114 (0)	149 (0)	135 (0)	145 (0)	123 (0)
	計 (E)	287 (0)	328 (0)	328 (0)	328 (0)	336 (0)
志願倍率 (C) / (B)		1.28	1.20	1.14	1.18	1.13
受検倍率 (D) / (B)		1.28	1.18	1.14	1.18	1.13
入 学 者 数	男	173	179	193	183	213
	女	114	149	135	145	123
	計 (F)	287	328	328	328	336
充足率 (F) / (A)		1.03	1.03	1.03	1.03	1.05

(定時制)

区 分		平成3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学 科 別		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
生徒定員 (A)		40	40	40	40	40
募集者数 (B)		40	40	40	40	40
志願者数	男	4 (0)	3 (0)	9 (0)	10 (0)	9 (1)
	女	5 (0)	1 (0)	9 (0)	3 (0)	3 (0)
	計 (C)	9 (0)	4 (0)	18 (0)	13 (0)	12 (1)
受検者数	男	4 (0)	3 (0)	9 (0)	10 (0)	9 (1)
	女	5 (0)	1 (0)	9 (0)	3 (0)	3 (0)
	計 (D)	9 (0)	4 (0)	18 (0)	13 (0)	12 (1)
合格者数	男	7 (0)	4 (0)	3 (0)	9 (0)	9 (1)
	女	1 (1)	4 (0)	1 (0)	9 (0)	3 (0)
	計 (E)	8 (1)	8 (0)	4 (0)	18 (0)	12 (1)
志願倍率 (C) / (B)		0.23	0.10	0.45	0.33	0.30
受検倍率 (D) / (B)		0.23	0.10	0.45	0.33	0.30
入 学 者 数	男	7	4	3	8	8
	女	2	4	1	9	3
	計 (F)	9	8	4	17	11
充足率 (F) / (A)		0.23	0.20	0.10	0.43	0.28

□□□□

卒業生の動向調

1 進路状況 (全日制)

学 科 別		普 通 科		
年 度		令和4年度	令和5年度	令和6年度
卒業生徒数		318	278	320
内 訳	(進学志願者)	(318)	(278)	(320)
	進 学 者			
	大学・短大	238	230	257
	専修・各種学校等	3	2	0
	小 計	241	232	257
	就 職 者	0	0	0
	自 営 者	0	0	0
	進学準備者	74	46	63
	そ の 他	3	0	0
合 計		318	278	320

(定時制)

学 科 別		普 通 科		
年 度		令和4年度	令和5年度	令和6年度
卒業生徒数		8	5	7
内 訳	(進学志願者)	(2)	(1)	(2)
	進 学 者			
	大学・短大	0	0	0
	専修・各種学校等	2	1	2
	小 計	2	1	2
	就 職 者	6	4	4
	自 営 者	0	0	0
	進学準備者	0	0	0
	そ の 他	0	0	1
合 計		8	5	7

2 求人状況 (全日制)

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
就職希望者数		—	—
求 人 数		—	—
求 人 倍 率	—		

3 資格取得状況

全日制及び定時制とも該当なし

□□□□

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地

(全日制)

(7年1月31日現在) (単位：人)

市町村名	静岡市	焼津市	藤枝市	島田市	富士市	浜松市	牧之原市	その他	合計
生徒数	678	59	86	42	19	4	10	42	940
構成比%	72.1	6.3	9.2	4.5	2.0	0.4	1.1	4.5	100.0

(定時制)

(7年1月31日現在) (単位：人)

市町村名	静岡市	県内	県外	合計
生徒数	36	3		39
構成比%	92.3	7.7		100.0

(2) 通学方法

(全日制)

(7年1月31日現在) (単位：人)

区 分	徒歩	自転車	バス	電車	その他	合計
生徒数	33	795	37	106	2	973
構成比%	3.4	81.7	3.8	10.9	0.2	100.0

(定時制)

(7年1月31日現在) (単位：人)

区 分	徒歩	自転車	バス・電車	二輪	四輪	その他	合計
生徒数	3	22	10			4	39
構成比%	7.7	56.4	25.6			10.0	99.7

(3) 生徒の年齢

(定時制)

(7年1月31日現在) (単位：人)

区 分	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳超	計
1 年	3	10	1									14
2 年		1	12		1							14
3 年			1	3								4
4 年				2	4	1						7
計	3	11	14	5	5	1						39

(4) 生徒の就業状況

(定時制)

(7年1月31日現在) (単位：人)

区 分	建設	製造	卸小売	サービス	各種学校	その他	無職	計
1 年			3	6			5	14
2 年			1	8			5	14
3 年				4				4
4 年			1	5			1	7
計			5	23			11	39

2 部(クラブ)の加入状況

(全日制)

(7年1月31日現在) (単位：人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ) 数		18	17		35
男子	1 年	124	51	7	182
	2 年	133	47	12	192
	3 年	99	65	10	174
	計 (A)	356	163	29	548
	構成比	65.0%	29.7%	5.3%	100.0%
女子	1 年	61	75	9	145
	2 年	49	77	8	134
	3 年	51	91	4	146
	計 (B)	161	243	21	425
	構成比	37.9%	57.2%	4.9%	100.0%
合計	(A+B)	517	406	50	973
	構成比	53.1%	41.7%	5.1%	100.0%

(定時制)

(7年1月31日現在) (単位：人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ) 数		2			2
男子	1 年	6		2	8
	2 年	7		1	8
	3 年	2		3	5
	4 年	1		5	6
	計 (A)	16		11	27
	構成比	59.3%		40.7%	100.0%
女子	1 年	1		7	8
	2 年	1		1	2
	3 年			4	4
	4 年	1		1	2
	計 (B)	3		13	16
	構成比	18.8%		81.3%	100.0%
合計	(A+B)	19		24	43
	構成比	44.2%		55.8%	100.0%

□□□□

授 業 料 収 納 状 況 調

(令和5年度)

(全日制)

期 別	月 別	調定の状況								収納の状況				異動者等の状況
		1 年		2 年		3 年		計		納期内収納額		納期後 収納額	収 入 未済額	
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額		収納率			
一 期	4	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	A. 期首収納権利発生額 = 14,048,100円 473人 × 9,900円 × 3月 = 14,048,100円
	5													
	6													B. 収納権利増減 (▲) = 0円 (内訳)
	7	174	5,167,800	161	4,781,700	138	4,098,600	473	14,048,100	13,869,900	98.73		178,200	
	8											178,200	0	
	計	174	5,167,800	161	4,781,700	138	4,098,600	473	14,048,100	13,869,900	98.73	178,200	0	C. 収納必要額 A(±) B = 14,048,100円
二 期	7													A. 期首収納権利発生額 = 22,968,000円 464人 × 9,900円 × 5月 = 22,968,000円
	8													B. 収納権利増減 (▲) = ▲ 39,600円 (内訳) 2年：休学留学(R5.8.31~R6.7.31) ▲ 1 1人 × ▲9,900円 × 3月 = ▲ 29700 1年：転学(R5.10.31) ▲ 1 1人 × ▲9,900円 × 1月 = ▲ 9900
	9													
	10	173	8,563,500	155 ▲ 1	7,672,500 ▲ 29,700	136	6,732,000	464 ▲ 1	22,968,000 ▲ 29,700	22,789,800	99.40		148,500	
	11	▲ 1	▲ 9,900					▲ 1	▲ 9,900	▲ 9,900		148,500	0	
	計	172	8,553,600	154	7,642,800	136	6,732,000	462	22,928,400	22,779,900	99.35	148,500	0	C. 収納必要額 A(±) B = 22,928,400円
三 期	12													A. 期首収納権利発生額 = 18,295,200円 462人 × 9,900円 × 4月 = 18,295,200円
	1	172	6,811,200	154	6,098,400	136	5,385,600	462	18,295,200	18,176,400	99.35		118,800	B. 収納権利増減 (▲) = 0円 (内訳)
	2											118,800	0	
	3													
	計	172	6,811,200	154	6,098,400	136	5,385,600	462	18,295,200	18,176,400	99.35	118,800	0	C. 収納必要額 A(±) B = 18,295,200円
合計		518	20,532,600	469	18,522,900	410	16,216,200	1,397	55,271,700	54,826,200	99.14	445,500	0	D 収納必要額 = 55,271,700円

□□□□
(定時制)

授 業 料 収 納 状 況 調

(令和5年度)

期別	月別	調定の状況										収納の状況				異動者等の状況
		1 年		2 年		3 年		4 年		計		納期内収納額		納期後 収納額	収 入 未済額	
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額		収納率			
一期	4	人	円	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	A. 期首収納権利発生額 = 48,600円 6人 × 2,700円 × 3月 = 48,600円
	5															B. 収納権利増減 (▲) = (内訳)
	6															
	7	3	24,300			2	16,200	1	8,100	6	48,600	48,600	100.00	0	0	
	8															
	計	3	24,300	0	0	2	16,200	1	8,100	6	48,600	48,600	100.00	0	0	C. 収納必要額 A(二) B = 48,600円
二期	7															A. 期首収納権利発生額 = 54,000円 4人 × 2,700円 × 5月 = 54,000円
	8															B. 収納権利増減 (▲) = 2,700 (内訳) 3年：転学 (R6.7.13) 1人 1人 × 2,700円 × 1月 = 2,700円
	9					1	2,700			1	2,700	2,700	100.00	0	0	
	10	2	27,000			1	13,500	1	13,500	4	54,000	54,000	100.00	0	0	
	11															
	計	2	27,000	0	0	2	16,200	1	13,500	5	56,700	56,700	100.00	0	0	C. 収納必要額 A(二) B = 56,700円
三期	12															A. 期首収納権利発生額 = 43,200円 4人 × 2,700円 × 4月 = 43,200円
	1	2	21,600			1	10,800	1	10,800	4	43,200	43,200	100.00	0	0	B. 収納権利増減 (▲) = (内訳)
	2															
	3															
	計	2	21,600	0	0	1	10,800	1	10,800	4	43,200	43,200	100.00	0	0	C. 収納必要額 A(二) B = 43,200円
合計		7	72,900	0	0	5	43,200	3	32,400	15	148,500	148,500	100.00	0	0	D 収納必要額 = 148,500円

□□□□
(全日制)

授 業 料 収 納 状 況 調

(令和6年度)
(令和7年1月31日現在)

期 別 月 別		調定の状況								収納の状況				異動者等の状況
		1 年		2 年		3 年		計		納期内収納額 収納率		納期後 収納額	収 入 未 済 額	
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額					
一 期	4	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	A. 期首収納権利発生額 = 14,642,100円 493人 × 9,900円 × 3月 = 14,642,100円
	5													
	6													B. 収納権利増減 (▲) = 0円 (内訳)
	7	169	5,019,300	170	5,049,000	154	4,573,800	493	14,642,100	14,345,100	97.97		297,000	
	8											297,000	0	
	計	169	5,019,300	170	5,049,000	154	4,573,800	493	14,642,100	14,345,100	97.97	297,000	0	C. 収納必要額 A(±) B = 14,642,100円
二 期	7													A. 期首収納権利発生額 = 25,047,000円 506人 × 9,900円 × 5月 = 25,047,000円
	8													B. 収納権利増減 (▲) = ▲ 19,800円 (内訳) 1 年 : 転学 (R6. 9. 30) ▲ 1 人 1人 × ▲9,900円 × 2月 = ▲ 19,800円
	9													
	10	182 ▲ 1	9,009,000 ▲ 19,800	164	8,118,000	160	7,920,000	506 ▲ 1	25,047,000 ▲ 19,800	24,878,700	99.41		148,500	
	11											148,500	0	
	計	181	8,989,200	164	8,118,000	160	7,920,000	505	25,027,200	24,878,700	99.41	148,500	0	C. 収納必要額 A(±) B = 25,027,200円
三 期	12													A. 期首収納権利発生額 = 19,958,400円 504人 × 9,900円 × 4月 = 19,958,400円
	1	181	7,167,600	164	6,494,400	159	6,296,400	504	19,958,400	19,839,600	99.40		118,800	B. 収納権利増減 (▲) = ▲ 19,800円 (内訳) 2 年 : 転学 (R7. 1. 31) ▲ 1 人 1人 × ▲9,900円 × 2月 = ▲ 19,800円
	2			▲ 1	▲ 19,800					▲ 19,800		118,800	0	
	3													
	計	181	7,167,600	163	6,474,600	159	6,296,400	503	19,938,600	19,819,800	99.40	118,800	0	C. 収納必要額 A(±) B = 19,938,600円
合計		531	21,176,100	497	19,641,600	473	18,790,200	1,501	59,607,900	59,043,600	98.93	564,300	0	D 収納必要額 = 59,607,900円

□□□□
(定時制)

授 業 料 収 納 状 況 調

(令和6年度)
(令和7年1月31日現在)

期別	月別	調定の状況										収納の状況				異動者等の状況
		1 年		2 年		3 年		4 年		計		納期内収納額		納期後 収納額	収 入 未済額	
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額					
一 期	4	人	円	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	A. 期首収納権利発生額 = 32,400円 4人 × 2,700円 × 3月 = 32,400円
	5															B. 収納権利増減 (▲) = (内訳)
	6															
	7	1	8,100	2	16,200			1	8,100	4	32,400	24,300	75.00		8,100	
	8													8,100		
	計	1	8,100	2	16,200	0	0	1	8,100	4	32,400	24,300	75.00	8,100	0	C. 収納必要額 A(二) B = 32,400円
二 期	7															A. 期首収納権利発生額 = 27,000円 2人 × 2,700円 × 5月 = 27,000円
	8															B. 収納権利増減 (▲) = (内訳)
	9															
	10	1	13,500	1	13,500					2	27,000	27,000	100.00	0	0	
	11															
	計	1	13,500	1	13,500	0	0	0	0	2	27,000	27,000	100.00	0	0	C. 収納必要額 A(二) B = 27,000円
三 期	12															A. 期首収納権利発生額 = 21,600円 2人 × 2,700円 × 4月 = 21,600円
	1	1	10,800	1	10,800					2	21,600	21,600	100.00	0	0	B. 収納権利増減 (▲) = (内訳)
	2															
	3															
	計	1	10,800	1	10,800	0	0	0	0	2	21,600	21,600	100.00	0	0	C. 収納必要額 A(二) B = 21,600円
	合計	3	32,400	4	40,500	0	0	1	8,100	8	81,000	72,900	91.67	8,100	0	D 収納必要額 = 81,000円

□□□□

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和 5 年度	令和 6 年度 (令和 7 年 1 月 31 日現在)
	件 数	件 数
入学検定料（全日制）	380	0
入学検定料（定時制）	13	0

□□□□

過年度分収入未済額調

(令和 7 年 1 月 31 日現在)

年度 \ 区分	定時制高等学校授業料			
	件数	収入未済額	件数	収入未済額
2 年度 以前 (A)				
3 年度				
4 年度				
5 年度				
6 年度				
計				
摘要①（滞納処分の停止等の理由）				
摘要①（不納欠損処分の件数、額）	2 件 18,900円			
摘要①（A欄のうち1件10万円以上の内訳）				

□□□□

預 金 調

(令和6年度)

(令和7年1月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口 座 名 義 人	残高 円	摘 要
静岡焼津信用 金庫長谷支店	無利息型 普通預金	0698676	静岡県立静岡高等学校資金前渡者 校長 織田 敦	10,000	交際費管理用
静岡焼津信用 金庫長谷支店	無利息型 普通預金	0698707	静岡県立静岡高等学校資金前渡者 自振口 校長 織田 敦	0	公共料金 引落とし用
残 高 合 計				10,000	

□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和5年度)

節 名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和4年度	令和5年度	うち、前年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		935,550	
	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		1,190,970	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		1,061,654	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費		2,856,800	
計						6,044,974	0
(14) 工事費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		1,842,500	
計						1,842,500	0
(17) 備品購入費							
計						0	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		58,138,921	
	一般会計	教育費	高等学校費	健康体育費		33,570	
計						58,172,491	0

様式第10号－3

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和6年度)

(令和7年1月31日現在)

節 名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、前年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	796,198	0
	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	1,181,378	0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	650,100	0
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	2,111,400	0
	一般会計	教育費	学校教育費	高校教育費	0	0
計					4,739,076	0
(14) 工事費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	8,569,000	8,569,000
	一般会計	教育費	学校教育費	高校教育費	0	
計					8,569,000	8,569,000
(17) 備品購入費	一般会計	教育費	学校教育費	高校教育費	0	0
計					0	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	59,260,300	0
	一般会計	教育費	高等学校費	健康体育費	0	
計					59,260,300	0

□□□□

委 託 料 に

整理 番号	委 託 業 務 名	受 託 者	当初設計 金額 (円)	契 約 金 額 (円)		
				当初額	変更増減額	計
	(事務関係)		円	円	円	円
1	学校給食業務	株式会社ユアーズ静岡	13,243,124	8,800,000	0	8,800,000
2	学校給食業務	株式会社ユアーズ静岡	15,907,917	8,448,000	0	8,448,000
3	夜間定時制高等学校 校舎等管理業務	株式会社ユアーズ静岡	956,340 (日額4,950円)	935,550 (日額4,950円)	0	935,550
4	静岡高等学校外8校 ガスヒートポンプ 点検業務	株式会社ユアーズ静岡	2,960,496	2,145,000	▲ 10,846	2,134,154
5	産業廃棄物収集運搬 処分業務委託	ジャパンウエイスト (株)	52,250	52,250	0	52,250
6	産業廃棄物収集運搬 処分業務委託	株式会社静岡資源	66,220	66,220	0	66,220
	事 務 関 係 計	6件				
	(工 事 関 係)					
	工 事 関 係 計	0 件				
	合 計	6				
参考 1	消防用設備等 保守点検業務	有限会社コーセイ産業		5,939,505	▲ 921	5,938,584
参考 2	自家用電気工作物保安 管理業務	北川電気保安管理事務所		826,650	0	826,650
参考 3	プール浄化装置保守点 検業務	三笠産業有限会社		743,600	0	743,600
参考 4	建築物環境衛生管理業 務	静岡ビル保善株式会社		10,626,000	0	10,626,000
参考 5	可燃物収集運搬処理業 務	株式会社静岡清掃企業		運搬料単価 @14,300円 処分料単価 @11円/kg	0	運搬料単価 @14,300円 処分料単価 @11円/kg
参考 6	建築基準法12条に基づ く定期点検業務	合同会社石橋剛設計事 務所		2,970,000	0	2,970,000
参考 7	警備業務委託	エスピートム株式会社		11,088,000	42,900	11,130,900
	計	7 件				

関 する 調

(令和5年度)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金 額 (円)	委託業務の内容	摘 要
一般	2.8.3 ～ 5.7.31	(累計) 5.5.31 5.6.30 5.7.31 5.8.31 小計	円 (4,889,600) 244,400 244,400 244,400 244,400 977,600	定時制の 給食調理 (配膳)業務	2長期
一般	5.8.1 ～ 8.7.31	5.9.29 5.10.31 5.11.30 5.12.26 6.1.31 6.2.29 6.3.29 6.4.30 小計	237,000 234,600 234,600 234,600 234,600 234,600 234,600 234,600 1,879,200	定時制の 給食調理 (配膳)業務	2長期
随契	5.4.5 ～ 6.3.31	5.5.31 5.6.30 5.7.31 5.8.31 5.9.29 5.10.31 5.11.30 5.12.26 6.1.31 6.2.29 6.3.29 6.4.30 小計	89,100 99,000 103,950 69,300 4,950 99,000 103,950 94,050 69,300 74,250 94,050 34,650 935,550	定時制課程 対応校舎管 理業務予定 日数 189日	随契 1 号 (少額)
一般	5.5.24 ～ 6.3.31	5.8.23 6.4.26 小計	1,501,500 632,654 2,134,154	ガスヒート ポンプ点検 業務	静岡東、静岡農業、静岡商業、 静岡視覚、静岡聴覚、 静岡北特支、中央特支 清水東
随契	5.12.20 ～ 6.3.29	6.2.29	55,250	産業廃棄物処分業務	随契 1 号 (少額)
随契	6.3.13 ～ 6.3.29	6.4.12	66,220	産業廃棄物処分業務	随契 1 号 (少額)
			5,293,850		
			0		
			0		
			5,293,850		
	5.4.1 ～ 6.3.31			総合点検 1 回 機器点検 1 回 防火設備点検 1 回	静岡東高校
	5.4.1 ～ 6.3.31			自家用電気工作物 保守点検	静岡城北高校
	5.4.10 ～ 5.11.17			始業点検 1 回 終了点検 1 回	静岡西高校
	5.4.1 ～ 6.3.31			建築物環境衛生管 理業務	静岡中央高校
	5.4.1 ～ 6.3.31			可燃物収集運搬処 理	静岡農業高校
	5.8.17 ～ 6.1.31			建築基準法12条に よる建物点検業務	静岡商業高校
	1.9.17 ～ 6.9.30			機械警備業務	駿河総合高校

□□□□

委 託 料 に

整理 番号	委 託 業 務 名	受 託 者	当初設計 金額 (円)	契 約 金 額(円)		
				当初額	変更増減額	計
	(事務関係)		円	円	円	円
1	学校給食業務	株式会社ユアーズ静岡	15,907,917	8,448,000	0	8,448,000
2	夜間定時制高等学校 校舎等管理業務	株式会社ユアーズ静岡	977,075 (日額5,225円)	956,505 (日額5,115円)	0	956,505
3	静岡高等学校外7校 ガスヒートポンプ 点検業務	株式会社ユアーズ静岡	2,906,288	2,409,000	0	2,409,000
4	産業廃棄物収集運搬 処分業務委託	株式会社静岡資源	66,220	66,220	0	66,220
5	産業廃棄物 (蛍光灯)	株式会社静岡資源	99,858	99,858	0	99,858
	工 事 関 係 計	1 件				
1	静岡県立静岡高等学校 有害物質含有調査業務 委託	(株) 静環検査センター	105,600	61,600	▲ 12,192	49,408
	合 計	4件				
参考 1	消防用設備等 保守点検業務	有限会社コーセイ産業		7,117,792	▲ 1,478	7,116,314
参考 2	自家用電気工作物保安 管理業務	北川電気保安管理事務所		826,650	84,810	911,460
参考 3	プール浄化装置保守点 検業務	大学産業株式会社		739,200	0	739,200
参考 4	建築物環境衛生管理業 務	静岡ビル保善株式会社		11,110,000	0	11,110,000
参考 5	可燃物収集運搬処理業 務	株式会社静岡清掃企業		運搬料単価 @ 15,950円 処分料単価 @ 11円/kg	0	運搬料単価 @ 15,950円 処分料単価 @ 11円/kg
参考 6	建築基準法12条に基づ く定期点検業務	合同会社石橋剛設計事 務所		3,850,000	0	3,850,000
参考 7	警備業務委託	エスビートーム株式会社		12,999,360		12,999,360
	計	7 件				

関する調

(令和6年度)
(令和7年1月31日現在)

契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額(円)	委託業務の内容	摘要
一般	5.8.1 ～ 8.7.31	(累計) 6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.9.30 6.10.31 6.11.29 6.12.26 7.1.31 小計	円 (4,834,915) 234,600 234,600 234,600 234,600 234,600 234,600 234,600 234,600 234,600 2,111,400	定時制の 給食調理 (配膳)業務	2長期
随契	6.4.4 ～ 7.3.31	6.5.31 6.6.28 6.7.31 6.8.30 6.10.31 6.11.29 6.11.29 6.12.26 7.1.31 小計	92,070 97,185 102,300 71,610 97,185 112,530 97,185 76,725 76,725 823,515	定時制課程 対応校舎管 理業務予定 日数 187日	随契1号 (少額) 単価契約
一般	6.5.22 ～ 7.3.31	6.8.9	1,665,400	ガスヒート ポンプ点検 業務	静岡東、静岡農業、静岡商業、 清水東、静岡聴覚 静岡北特支、中央特支
随契	6.10.4 ～ 6.11.29	6.10.28	66,220	産業廃棄物処分業務	随契1号 (少額)
随契	6.11.29 ～ 7.3.31	6.12.20	99,858	蛍光灯処分業務	随契1号 (少額)
			0		
随契	6.5.31 ～ 6.7.12	6.8.16	49,408	有害物質含有調査	随契1号 (少額)
			0		
	6.4.1 ～ 7.3.31			総合点検1回 機器点検1回 防火設備点検1回	静岡東高校
	6.4.1 ～ 7.3.31			自家用電気工作物保 守点検	静岡城北高校
	6.4.15 ～ 6.11.15			始業点検1回 終了点検1回	静岡西高校
	6.4.1 ～ 7.3.31			建築物環境衛生管理 業務	静岡中央高校
	6.4.1 ～ 7.3.31			可燃物収集運搬処理	静岡農業高校
	6.8.13 ～ 7.1.31			建築基準法12条によ る建物点検業務	静岡商業高校
	6.10.1 ～ 11.9.30			機械警備業務	駿河総合高校

□□□□

補 助 金

整理 番号	対象事業名	交付先	補助の 根拠	事業の実績	総事業費	補助金額
1	高等学校定時制課程及び通信制課程教科書等購入費補助金	定時制生徒	高等学校定時制課程及び通信制課程教科書等購入費補助金交付要綱	定時制課程の教科書の購入及び夜食費の補助	円 42,491	円 42,491
	計	1 件			42,491	42,491

支 出 調

(令和5年度)

補助率	交付決定		交 付		事業完了		摘要
	年月日	金 額	年月日	金 額	年月日	確認年月日	
100	6.3.22	42,491 円	6.4.5	42,491 円	6.3.22	6.3.22	
		42,491		42,491			

□□□□

補 助 金

整理 番号	対象事業名	交付先	補助の 根拠	事業の実績	総事業費	補助金額
1	高等学校定時制課程及び通信制課程教科書等購入費補助金	定時制生徒(未定)	高等学校定時制課程及び通信制課程教科書等購入費補助金交付要綱	定時制課程の教科書の購入及び夜食費の補助	円	円
	計				0	0

支 出 調

(令和6年度)
(令和7年1月31日現在)

補助率	交付決定		交 付		事業完了		摘要
	年月日	金 額 円	年月日	金 額 円	年月日	確認年月日	
		0		0			

□□□□

負担金支出調

(令和5年度)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長協会第75回 総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	会議参加費	研究協議会	2,000	5.5.9
2	全国高等学校長協会負担金	全国高等学校長協会 会長代行 石崎 規生	全国高等学校長協 会規約	学校管理運営に 関すること	672,000	5.5.16
3	全国高等学校教頭・副校長 会総会・研究協議会愛知大 会運参加費	全国高等学校教頭・副校 長会愛知大会運営委員長 鈴木 静	会議参加費	研究協議会	8,000	5.6.14
4	東海四県高等学校長連絡協 議会総会・研究協議会参加 費	東海四県高等学校長連絡 協議会 会長 辻 成尚	会議参加費	研究協議会	2,000	5.7.12
5	全国高等学校定時制通信制 教頭・副校長協会教育研究 協議会参加費	全国高等学校定時制通信 制教頭・副校長協会教育 研究協議会理事長 秋谷 悟	会議参加費	研究協議会	5,000	5.7.14
6	全国定通教頭・副校長協会 第56回東海支部総会等参加 費	全国定通高等学校教頭・ 副校長会	会議参加費	研究協議会	2,000	5.8.31
7	全国普通科高等学校長会第 73回総会・研究協議会参加 費負担金	全国普通科高等学校長会 理事長	会議参加費	研究協議会	2,300	5.8.31
8	全国高等学校教頭・副校長 会負担金	全国高等学校教頭・副校 長会	全国高等学校教 頭・副校長会規約	学校管理運営に 関すること	904,500	5.9.4
9	東海地方公立高等学校事務 職員研究協議会負担金	東海地方公立高等学校事 務職員研究協議会 会長 日比野 佳弘	東海公立高等学校 事務職員研究協議 会会則	学校事務職員の 資質向上に關す ること等	42,000	5.10.31
10	全国公立高等学校事務職員 協会負担金	全国公立高等学校事務職 員協会 会長 川島 武	全国公立高等学校 事務職員協会会則	学校事務職員の 資質向上に關す ること等	251,000	5.10.31
11	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第1期分 459名分)	高等学校等就学支 援金の支給に關す る法律	高等学校に在籍す る生徒の授業料に 充てる	13,632,300	振替日 5.7.31
12	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料 (第1期分 30名分)	高等学校等就学支 援金の支給に關す る法律	高等学校に在籍す る生徒の授業料に 充てる	243,000	振替日 5.7.31
13	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第2期分 468名分)	高等学校等就学支 援金の支給に關す る法律	高等学校に在籍す る生徒の授業料に 充てる	23,166,000	振替日 5.10.31
14	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料 (第2期分 30名分)	高等学校等就学支 援金の支給に關す る法律	高等学校に在籍す る生徒の授業料	399,600	振替日 5.10.31
15	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料 (第3期分 467名分)	高等学校等就学支 援金の支給に關す る法律	高等学校に在籍す る生徒の授業料に 充てる	18,493,200	振替日 6.1.31
16	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料 (第3期分 29名分)	高等学校等就学支 援金の支給に關す る法律	高等学校に在籍す る生徒の授業料に 充てる	305,100	振替日 6.1.31
	計	16件			58,130,000	

□□□□

負担金支出調

(令和6年度)
(令和7年1月31日現在)

整理 番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国高等学校長協会第76回総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	会議参加費	研究協議会	4,000	6.5.14
2	全国高等学校長協会負担金	全国高等学校長協会 会長 石崎 規生	全国高等学校長協会規約	学校管理運営に関すること	672,000	6.5.20
3	第63回全国高等学校教頭・副校長会総会・研究協議会 滋賀大会運参加費	全国高等学校教頭・副校長会 会長 皆川 貢治郎	会議参加費	研究協議会	4,000	6.6.24
4	東海四県高等学校長連絡協議会総会・研究協議会参加費	東海四県高等学校長連絡協議会 会長 高井 俊直	会議参加費	研究協議会	2,000	6.7.4
5	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会参加費	東海四県高等学校校長会 生徒指導連絡協議会 会長 飯田 寛志	会議参加費	研究協議会	2,000	6.8.2
6	全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会第57回東海支部総会・研究協議会参加費	全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会教育研究協議会理事長 藤井 正剛	会議参加費	研究協議会	2,000	6.8.23
7	全国高等学校教頭・副校長会負担金	全国高等学校教頭・副校長会	全国高等学校教頭・副校長会規約	学校管理運営に関すること	904,500	6.9.27
8	東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会総会・研究協議会参加費	東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会 溝下 肇	会議参加費	研究協議会	2,000	6.9.30
9	東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会総会研究協議会分担金	東海地区高等学校教頭・副校長会連絡協議会 溝下 肇	通知	学校管理運営に関すること	30,000	6.10.11
10	東海地方公立高等学校事務職員研究協議会負担金	東海地方公立高等学校事務職員研究協議会 会長 古知 聡	東海公立高等学校事務職員研究協議会会則	学校事務職員の資質向上に関すること等	42,000	6.10.31
11	全国公立高等学校事務職員協会負担金	全国公立高等学校事務職員協会 会長 石田 早苗	全国公立高等学校事務職員協会会則	学校事務職員の資質向上に関すること等	250,500	6.10.31
12	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(第1期分 483名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	14,345,100	振替日 6.7.31
13	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料(第1期分 34名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	278,100	振替日 6.7.31
14	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料(第1期分 1名分)	高等学校等を中途退学した後再び高等学校等で学び直す者に対して高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	5,400	振替日 6.7.31
15	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(第2期分 471名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	23,245,200	振替日 6.10.31
16	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料(第2期分 36名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	486,000	振替日 6.10.31
17	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料(第2期分 1名分)	高等学校等を中途退学した後再び高等学校等で学び直す者に対して高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	13,500	振替日 6.10.31
18	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(第3期分 469名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	18,572,400	振替日 7.1.31
19	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料(第3期分 36名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	388,800	振替日 7.1.31
20	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料(第3期分 1名分)	高等学校等を中途退学した後再び高等学校等で学び直す者に対して高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	10,800	振替日 7.1.31
	計	20件			59,260,300	

□□□□

建 築

整理 番号	予算 科目	工 事 名	工事箇所	当初設計金額	契 約 金	
					当初額	変更増減額
1	教育 管理 費	令和5年度 静岡高等学校校舎棟（パソコン室）空調機器更新工事	静岡市葵区 長谷町	1,870,000	1,842,500	円 0
2	教育 管理 費	令和5年度 静岡高等学校ろ材取替及び循環ポンプ等更新工事	静岡市葵区 長谷町	8,910,000	8,569,000	円 0
		合 計		2件	円 10,411,500	円 0

工 事 調

(令和 5 年度)

額 計	契約 締結 方法	受注者	着手・完成 (予 定) 年月日	支出済額	工 事 概 要	公有 財産 台帳	摘 要
円 1,842,500	随契	静甲 (株)	5.11.27 6.2.5	円 1,842,500	パソコン室空調機器 の更新	済	令達 5.10.4 随契1号 (少額)
円 8,569,000	指名	(株) 福泉	6.2.6 6.5.30	円 8,569,000	ろ過機ろ材取替及び 循環ポンプ等の更新	一	令達 5.12.26 頁72 整理番号1
円 10,411,500				円 10,411,500			

□□□□

建 築

整理 番号	予算 科目	工 事 名	工事箇所	当初設計金額	契 約 金	
					当初額	変更増減額
1	高校 教育 費	令和6年度 静岡県立静岡高等学校図書館分電盤改修工事	静岡市葵区 長谷町	1,595,000	1,540,000	円 0
		合 計		1件	円 1,540,000	円 0

工 事 調

(令和 6 年度)
(令和 7 年 1 月 31 日現在)

額 計	契約 締結 方法	受注者	着手・完成 (予 定) 年月日	支出済額	工 事 概 要	公有 財産 台帳	摘 要
円 1,540,000	随契	寺田電機 工業 (株)	6.11.27 7.3.26	円	図書館の分電盤の改 修	一	令達 6.6.7 随契 1 号 (少額)
円 1,540,000				円			

□□□□

繰越工

整理 番号	予 算 科 目	事業（箇所）名 及び内訳	事業箇所	契 約 額	前年度施行 支払額	繰 越 額
1	教育管理費	プールろ過機ろ 材取替及び循環ボ ンプ等更新工事 工事費	静岡市葵区 長谷町	円 8,569,000	円 0	円 8,569,000
		委託料				
		未契約分				
		用地費				
		補償費				
		負担金				
		小 計		8,569,000	0	8,569,000
		計		8,569,000	0	8,569,000
		工事費・事務費				0
		合 計				8,569,000
				工事費	1 件	8,569,000
			上 内	委託料	件	0
			記	未契約分		0
			計	用地費・補償費		0
			の 訳	負担金		0

- (注) 1 本表は、本庁又は出先機関において様式第11号、13号、17号及び19号のうちの繰越工事等並びに用地費、補償費の繰越分について調製する。
- 2 本表右上に（〇〇年度から〇〇年度へ繰越分）を表示する。
- 3 繰越額のうち、未契約のものがある場合は、既契約分につけ、次の行に未契約分として記載する。
- 4 繰越額計（繰越額・同左支出済額・支出未済額）の内訳として、「工事費」、「委託料」、「未契約分」、「用地費・補償費」及び「負担金」別の額を記載する。

(令和5年度から令和6年度へ繰越分)
(令和7年1月31日現在)

- 5 繰越額のうち、工事費（内訳）は、様式第16、18号の「前年度からの繰越事業の計」と整合する。
- 6 該当件数が10件程度以上の場合は、別冊とすることができる。
- 7 繰越理由は具体的な内容を記入する。（「用地費・補償費」及び「負担金」については理由の記載は不要。）

□□□□

公 有 財 産 調

(令和5年度)

区 分	令和5年3月31日現在			増			減			令和6年3月31日現在			摘 要
	数量又は 面	積	台帳 価 格	数量又は 面	積	台帳 価 格	数量又は 面	積	台帳 価 格	数量又は 面	積	台帳 価 格	
行政財産			千円 6,263,828			千円 1,741			千円 51,009			千円 6,214,560	
土 地	m ² 34,020.32		5,541,764	m ²			m ²			m ² 34,020.32		5,541,764	
立木竹	本 89		1,485	本			本			本 89		1,485	
建 物	m ² 8,722.39 17,647.33		580,897	m ²			m ²		43,936	m ² 8,722.39 17,647.33		536,961	
工作物	個 69		139,682	個 1		1,741	個		7,073	個 70		134,350	
普通財産			53,751			0			0			53,751	
土 地	m ² 459.21		53,751	m ²			m ²			m ² 459.21		53,751	
建 物	m ² 132.55 363.68		0	m ²			m ²			m ² 132.55 363.68		0	
工作物	個 0		0	個			個		0	個 0		0	
公有財産に 準ずるもの			254			0			0			254	
電話加入権	件 8		254	件			件			件 8		254	

□□□□

公 有 財 産 調

(令和6年度)
(令和6年1月31日現在)

区 分	令和6年3月31日現在			増			減			令和7年1月31日現在			摘 要
	数量又は 面	積	台帳 価 格	数量又は 面	積	台帳 価 格	数量又は 面	積	台帳 価 格	数量又は 面	積	台帳 価 格	
行政財産			千円 6,214,560			千円 2,239			千円 0			千円 6,216,799	
土 地	m ² 34,020.32		5,541,764	m ²			m ²			m ² 34,020.32		5,541,764	
立木竹	本 89		1,485	本			本			本 89		1,485	
建 物	m ² 8,722.39 17,647.33		536,961	m ²			m ²			m ² 8,722.39 17,647.33		493,062	
工作物	個 70		134,350	個 2		2,239	個			個 72		136,589	
普通財産			53,751			0			0			53,751	
土 地	m ² 459.21		53,751	m ²			m ²			m ² 459.21		53,751	
建 物	m ² 132.55 363.68		0	m ²			m ²			m ² 132.55 363.68		0	
工作物	個 0		0	個			個			個 0		0	
公有財産に 準ずるもの			254			0			0			254	
電話加入権	件 8		254	件			件			件 8		254	

□□□□

借 地 借 家 等 調

(令和6年度)

(令和7年1月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又は 面積	借 料		契約期間	所有者又は 契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年 額			
1	土地	敷地	静岡市葵区長谷町69	宅地	学校敷地	m ² 556.36	円 6,010	円 3,343,723	6.4.1 } 7.3.31	個人	運動場用地
2	土地	敷地	静岡市葵区長谷町72	宅地	学校敷地	293.38	6,505	1,908,436	6.4.1 } 9.3.31	個人	運動場用地
3	土地	敷地	静岡市葵区長谷町73	宅地	学校敷地	430.47	6,991	3,009,415	6.4.1 } 9.3.31	個人	運動場用地
4	土地	敷地	静岡市葵区長谷町75	宅地	学校敷地	178.51	3,459	617,466	6.4.1 } 9.3.31	個人	運動場用地
5	土地	敷地	静岡市葵区安東3丁目外18筆	宅地	学校敷地	3,971.77		2,896,686	63.4.1 } 6.3.31	東海財務局 静岡財務局長	運動場用地等
	小				計	5,430.49		11,775,726			
6	建物	倉庫建	静岡市葵区長谷町66			建 119.31 延 212.91		無 償	2.4.1 } 7.3.31	一般社団法人 印高会会長	部室
7	建物	倉庫建	静岡市葵区長谷町66			建 48.24 延 48.24		無 償	2.4.1 } 7.3.31	一般社団法人 印高会会長	雨天ピッチング 練習場
8	建物	倉庫建	静岡市葵区長谷町66			建 21.12 延 21.12		無 償	2.4.1 } 7.3.31	一般社団法人 印高会会長	倉庫 4棟
	小				計	建 188.67 延 282.27					
9	工作物	冷暖房装置	静岡市葵区長谷町66			1個		6,874,253	3.7.1 } 16.6.3	三井住友 ファイナンス & リース 株式会社	普通教室空調
10	工作物	雑工作物	静岡市葵区長谷町66			8個		無償	5.4.1 } 7.3.31	一般社団法人 印高会会長	合宿所空調・LL教室空調・記念碑・由来碑・倉庫・テニスコート・防球ネット
11	工作物	雑工作物	静岡市葵区長谷町66			4個		無償	5.4.1 } 7.3.31	静岡高等学校 同窓会長	時計塔・外灯・校舎案内板・日時計
12	工作物	雑工作物	静岡市葵区長谷町66			2個		無償	5.4.1 } 7.3.31	甲子園出場募 金管理委員会 委員長	野球部技術指導室・グランド整備車収納庫
13	工作物	雑工作物	静岡市葵区長谷町66			4個		無償	5.7.25 } 7.3.31	静岡野球部後 援会長	野球部メンテナンスルーム・技術指導室付属倉庫・歴代選手氏名ボード
14	工作物	冷暖房装置	静岡市葵区長谷町66			1個		2,828,461	6.7.1 } 19.6.30	NTT・TCリー ス株式会社	特別教室空調
	小				計	20個		9,702,714			
	合				計			21,478,440			

□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和6年度)

(令和7年1月31日現在)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)									
				31年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度
長期継続契約	静岡県立 静岡高等学校給食業務 委託契約	(契約日) 令和5年8月1日 定時制課程給食調理 (配膳)業務	8,460,000					1,879,200	2,815,200	2,815,200	938,400		
	静岡県立 静岡高等学校外5校 電子複写機賃貸借契約	(契約日) 平成31年4月1日 電子複写機賃貸借	9,086,432	1,804,045	1,820,597	1,820,597	1,820,597	1,820,596					
	静岡県立 静岡高等学校外5校 電子複写機賃貸借契約	(契約日) 令和6年4月1日 電子複写機賃貸借	13,680,480						2,736,096	2,736,096	2,736,096	2,736,096	2,736,096

□□□□

行政財産貸付・使用許可調

(令和6年度)
(令和7年1月31日現在)

整理 番号	区分	種 別	所 在 地	地 目		数量又は 面積	貸付料又は使用料		貸付又は 使用許可期間	貸付又は使用許可を 受けた者の氏名	貸付・使用許可 目的
				台帳	現況		単 価	年 額			
1	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	15.07㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	静岡市長	防災倉庫
2	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	3.91㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	静岡市長	同報無線子局
3	建物	事務所建	静岡市葵区 長谷町 6 6	鉄骨鉄筋 コンク リート造	5 階建	0.02㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	静岡市長	同報無線戸別受信 機
4	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	2条	1,500	3,000	2.4.1～7.3.31	中部電力パワーグリッド㈱静岡営業所長	本柱 1 本 支柱 1 本
5	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	2本 1条	1,500	4,500	4.4.1～7.3.31	㈱トコちゃんねる静岡	鋼管柱 1 本 コンクリート柱 1 本 支線 1 条
6	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	2本	1,500	3,000	6.4.1～9.3.31	西日本電信電話㈱ 静岡支店長	本柱 1 本 支柱 1 本
7	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	119.31㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	一般社団法人印高会会 長	部室
8	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	164.16㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	一般社団法人印高会会 長	雨天ピッチング 練習場
9	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	32.96㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	一般社団法人印高会会 長	静中・静高百周年 記念碑
10	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	1.96㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	一般社団法人印高会会 長	印高碑・由来碑
11	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	24.13㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	一般社団法人印高会会 長	倉庫
12	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	0.25㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	静岡県立静岡高等学校 同窓会会長	時計塔
13	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	0.25㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	静岡県立静岡高等学校 同窓会会長	外 灯
14	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	1.00㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	静岡県立静岡高等学校 同窓会会長	校舎案内板
15	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	0.39㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	静岡県立静岡高等学校 同窓会会長	日時計
16	建物	事務所建	静岡市葵区 長谷町 6 6	鉄骨鉄筋 コンク リート造	5 階建	214.16㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	一般社団法人印高会会 長	普通教室空調
17	建物	事務所建	静岡市葵区 長谷町 6 6	鉄骨鉄筋 コンク リート造	5 階建	0.53㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	一般社団法人印高会会 長	印高碑
18	建物	事務所建	静岡市葵区 長谷町 6 6	鉄骨鉄筋 コンク リート造	5 階建	1.49㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	静岡県立静岡高等学校 同窓会会長	同窓生等美術作品
19	建物	事務所建	静岡市葵区 長谷町 6 6	鉄骨鉄筋 コンク リート造	5 階建	132.49㎡		免 除	6.4.1～9.3.31	静岡高等学校 P T A 会 長	食 堂
20	建物	事務所建 倉庫建	静岡市葵区 長谷町 6 6	鉄筋コンク リート造 重量鉄骨造	2 階建	3.00㎡		8,640	4.4.1～7.3.31	静岡高等学校 P T A 会 長	牛乳・茶・水等 自動販売機
21	建物 土地	事務所建 敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	鉄骨鉄筋 コンク リート造	5 階建	65.48㎡		免 除	6.4.1～9.3.31	静岡県高等学校校長協 会長・体育連盟会長	事務室・書類保管 庫、駐車場
22	建物 土地	事務所建 敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	鉄筋コンク リート造	2 階建	61.72㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	静岡県立静岡高等学校 同窓会会長	事務局、駐車場
23	建物 土地	事務所建 敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	鉄骨鉄筋 コンク リート造	5 階建	15.52㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	静岡高等学校 P T A 会 長	団体職員執務場 所、駐車場
24	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	1125.09㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	一般社団法人印高会会 長	テニスコート
25	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	10.98㎡		免 除	3.4.1～8.3.31	静岡高等学校甲子園出 場募金管理委員会委員 長	野球技術指導室

整理 番号	区 分	種 別	所 在 地	地 目		数量又は 面積	貸付料又は使用料		貸付又は 使用許可期間	貸付又は使用許可を 受けた者の氏名	貸付・使用許可 目的
				台帳	現況		単 価	年 額			
26	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	11.36㎡		免 除	3.4.1～8.3.31	静岡高等学校甲子園出 場募金管理委員会委員 長	グラウンド整備車収 納庫
27	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	3.96㎡		免 除	3.4.1～8.3.31	静高野球部後援会会長	野球技術指導室付 属倉庫
28	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	22.70㎡		免 除	3.4.1～8.3.31	一般社団法人印高会会 長	ボール前防球ネッ ト
29	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	3.49㎡		免 除	5.4.1～10.3.31	静高野球部後援会会長	歴代選手氏名ボー ド
30	土地	敷地	静岡市葵区 長谷町 6 6	学校敷地	学校敷地	23.75㎡		免 除	6.4.1～11.3.31	静高野球部後援会会長	野球部バス駐車場
31	建物	事務所建	静岡市葵区 長谷町 6 6	鉄骨鉄筋 コンク リート造	2階建	8.34㎡		免 除	2.4.1～7.3.31	一般社団法人印高会会 長	合宿所空調
32	建物	事務所建	静岡市葵区 長谷町 6 6	鉄骨鉄筋 コンク リート造	5階建	1.00㎡		60,480	4.4.1～7.3.31	中央静岡ヤクルト販売 株式会社	自動販売機
33	建物	倉庫建	静岡市葵区 長谷町 6 6	重量鉄骨 造	2階建	2.00㎡		518,832	4.4.1～7.3.31	サントリービバレッジ ソリューション株式会 社	自動販売機
34	建物	事務所建	静岡市葵区 長谷町 6 6	鉄骨鉄筋 コンク リート造	2階建	14.26㎡		免除	3.9.27～7. 3.31	一般社団法人印高会会 長	特別教室空調
			計					598,452			

□□□□

普通財産・借受財産等貸付調

(令和6年度)

(令和7年1月31日現在)

整理 番号	区別	種 別	所 在 地	地 目		数量又は 面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許 可期間	貸付又は使用許可を 受けた者の氏名	貸付・使用許可 目的
				台帳	現況		単 価	年 額			
1	土地	宅 地	静岡市葵区 城北2丁目 6 1 5 - 1	宅地	宅地	1本 1条	1,500	3,000	5.4.1～8.3.31	中部電力（株）電力 ネットワークカンパ ニー静岡営業所長	本柱 1 本 支線 1 本
	計							3,000			

□□□□

職員公舎管理状況調

(令和6年度)

(令和 7 年 1 月31日現在)

所在地	建 築 年 月	構 造	管理 戸（室）数 （A）	入居 戸（室）数 （B）	Bのうち 他事務所職員 入居戸（室）数	空室 戸（室）数 （A）-（B）	摘 要
静岡市葵区 城北 2－18－27	S49.3	R C 造 3 階建	6	0	0	6	空家R5. 7. 31 (2) 空家R5. 4. 1 空家R2. 3. 31 空家R1. 7. 23 空家H29. 10. 31
計			6	0	0	6	

□□□□

主 要 備 品 調

(令和6年度)

(令和7年1月31日現在)

整理 番号	区 分		品名・規格	利用状況	購入 年月	購入金額
	大・中	小				
1	09-01	3 美術工芸品 (木彫)	120×65×60 赤楠材	毎日(年間365日) 展示用	H24.12	円 (寄附時評価額) 16,000,000
2	09-01	3 美術工芸品 (木彫)	前島秀章 2427×1520×1130mm	毎日(年間365日) 展示用	R4.6	(寄附時評価額) 15,500,000
3	02-01	1 パーソナルコンピュータ(一式) (パーソナルコンピュータ(一式))	ICT環境整備機器一式 パソコン教室	毎日(年間230日) 授業用	H30.3	4,898,880
4	06-99	99 その他の諸機器 (マスト式高所作業台)	ハセガワ UL30EAC	毎日(年間20日) 管理用	H31.3	1,598,400
5	10-07	4 鍵盤楽器 (ピアノ)	グランドピアノ	毎日(年間230日) 音楽授業、部活動用	H元.3	1,492,000
6	01-04	6 移動書庫 (移動書庫)	3列4連セット 並行型	毎日(年間365日) 事務書類整理保管用	H元.3	1,130,000
7	12-01	1 雑機器 (作業機器収納庫)	イナバ NXN-98H	毎日(年間365日) 管理用	H31.3	972,000
8	09-01	3 美術工芸品 (ブロンズ像)	雲にあそぶ 96×37×66 ブロンズ	毎日(年間365日) 展示用	H29.1	(寄附時評価額) 950,000
9	12-01	1 雑機器 (器具倉庫)	イナバ NXN-162H	毎日(年間365日) 管理用	H31.3	907,200
10	01-04	6 移動書庫 (移動書庫)	2列4連セット 並行型	毎日(年間365日) 事務書類整理保管用	S63.12	884,000
11	02-02	5 放送装置 (体育館放送設備一式)	アンプ、スピーカー、 ワイヤレスチューナー、 カセットデッキ等	毎日(年間230日) 学校行事、体育授業用	H3.4	849,750
12	10-12	7 野球・ソフト用器具 (特殊性能ピッチングマシン)	あらゆる球種投球可能	毎日(年間365日) 体育授業、部活動用	H20.6	(寄附時評価額) 750,000
13	02-02	5 放送装置	放送設備音声調整卓 WL-SA122	毎日(年間230日) 校内放送用	H25.3	708,750
14	01-02	2 台 (生物教師用実験台)	木製 3,400*900*1,050	毎日(年間150日) 生物授業用	S63.12	663,000
15	10-07	4 鍵盤楽器 (ピアノ)	グランドピアノ、88鍵	毎日(年間230日) 音楽授業、部活動用	S49.1	662,000
16	01-07	2 製本機 (丁合機)	デュプロ DFC-100L	週3回(年間120日) 配布物製本用	H28.3	625,320
17	12-01	1 雑機器 (器具倉庫)	イナバ NXN-62H	毎日(年間365日) 管理用	H31.3	604,800
18	01-02	2 台 (物理教師用実験台)	木製 3,400*900*1,050	毎日(年間150日) 生物授業用	S63.12	595,000
19	01-02	99 その他の庁用器具 (応接セット)	会議用机1台 会議用椅子6脚	毎日(年間230日) 応接、会議用	H30.6	587,952
20	01-14	1 エアコンディショナー	日立室内機 RPC-GP80K	毎日(年間230日) 体育研究室用	R元.9	583,200

□□□□

職 員 調

全日制

(令和7年4月1日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務 分担	住 所	勤務年数 年 月	摘 要
1	校長	織田 敦	校長	□□□□	□ 年□月	□□□□
2	副校長	鈴木 紀子	教頭	□□□□	□ 年□月	□□□□
3	教頭	坂野 哲也	教頭	□□□□	□ 年□月	□□□□
4	事務長	古知 聡	事務	□□□□	□ 年□月	□□□□
5	教諭	松丸 徹治	社会	□□□□	□ 年□月	□□□□
6	教諭	竹内 理夏	国語	□□□□	□ 年□月	□□□□
7	教諭	竹下 九美	英語	□□□□	□ 年□月	□□□□
8	教諭	村石 美香	社会	□□□□	□ 年□月	□□□□
9	教諭	倉澤 樹央	社会	□□□□	□ 年□月	□□□□
10	教諭	西澤 安彦	数学	□□□□	□ 年□月	□□□□
11	教諭	木村 育子	数学	□□□□	□ 年□月	□□□□
12	教諭	小杉 明史	社会	□□□□	□ 年□月	□□□□
13	教諭	加納 伸治	英語	□□□□	□ 年□月	□□□□
14	教諭	剣持 美砂子	英語	□□□□	□ 年□月	□□□□
15	教諭	北村 正一	数学	□□□□	□ 年□月	□□□□
16	教諭	田中 律水	国語	□□□□	□ 年□月	□□□□
17	教諭	平野 浩一	保体	□□□□	□ 年□月	□□□□
18	教諭	佐野 範幸	社会	□□□□	□ 年□月	□□□□
19	教諭	青野 寿代	英語	□□□□	□ 年□月	□□□□
19	教諭	片本 匠	社会	□□□□	□ 年□月	□□□□
20	教諭	漆畑 信之	理科	□□□□	□ 年□月	□□□□
21	教諭	村上 あずさ	英語	□□□□	□ 年□月	□□□□
22	教諭	岩倉 麻里子	国語	□□□□	□ 年□月	□□□□
23	教諭	平岡 靖史	理科	□□□□	□ 年□月	□□□□

24	教諭	坪内 博子	数学	□□□□	□ 年□月	□□□□
25	教諭	成島 泰代	英語	□□□□	□ 年□月	□□□□
26	教諭	戸塚 滋子	理科	□□□□	□ 年□月	□□□□
27	教諭	石代 裕子	保体	□□□□	□ 年□月	□□□□
28	教諭	宮地 恭代	美術	□□□□	□ 年□月	□□□□
29	教諭	望月 正貴	数学	□□□□	□ 年□月	□□□□
30	教諭	岩田 香緒里	英語	□□□□	□ 年□月	□□□□
31	教諭	望月 智子	英語	□□□□	□ 年□月	□□□□
32	教諭	壬生 亮輔	国語	□□□□	□ 年□月	□□□□
33	教諭	片山 直恵	保体	□□□□	□ 年□月	□□□□
34	教諭	久保田 好則	数学	□□□□	□ 年□月	□□□□
35	教諭	伊東 大介	国語	□□□□	□ 年□月	□□□□
36	教諭	京田 真弓	英語	□□□□	□ 年□月	□□□□
37	教諭	池田 新之介	保体	□□□□	□ 年□月	□□□□
38	教諭	蒔田 勉也	保体	□□□□	□ 年□月	□□□□
39	教諭	甲賀 大輔	社会	□□□□	□ 年□月	□□□□
40	教諭	杉山 沙奈	理科	□□□□	□ 年□月	□□□□
41	教諭	小柳 雅弘	理科	□□□□	□ 年□月	□□□□
42	教諭	舟金 健太	家庭	□□□□	□ 年□月	□□□□
43	教諭	櫻井 理規	保体	□□□□	□ 年□月	□□□□
44	教諭	富田 真永	数学	□□□□	□ 年□月	□□□□
45	教諭	甲斐 文子	理科	□□□□	□ 年□月	□□□□
46	教諭	佐野 遼平	数学	□□□□	□ 年□月	□□□□
47	教諭	森下 峻也	数学	□□□□	□ 年□月	□□□□
48	教諭	戸塚 裕美	保体	□□□□	□ 年□月	□□□□
50	教諭	山本 尚徳	社会	□□□□	□ 年□月	□□□□
51	教諭	大川 和恵	国語	□□□□	□ 年□月	□□□□
52	教諭	水野 稚菜	情報	□□□□	□ 年□月	□□□□

53	教諭	河合 透	理科	□□□□	□ 年□月	□□□□
54	教諭	梶山 雅美	社会	□□□□	□ 年□月	□□□□
55	教諭	宮城島 浩之	数学	□□□□	□ 年□月	□□□□
56	教諭	坂田 算浩	理科	□□□□	□ 年□月	□□□□
57	教諭	石田 智子	国語	□□□□	□ 年□月	□□□□
58	教諭	岩崎 明	国語	□□□□	□ 年□月	□□□□
59	教諭	櫻井 浩之	保体	□□□□	□ 年□月	□□□□
60	教諭	杉本 恭規	理科	□□□□	□ 年□月	□□□□
61	教諭	清水 敏之	国語	□□□□	□ 年□月	□□□□
62	教諭	青木 康人	数学	□□□□	□ 年□月	□□□□
64	養護教諭	内海 美香	養教	□□□□	□ 年□月	□□□□
65	主任実習助手	山元 由希子	実助	□□□□	□ 年□月	□□□□
66	主幹	関 大康	教行	□□□□	□ 年□月	□□□□
67	主査	竹本 千春	教行	□□□□	□ 年□月	□□□□
68	主任	山本 麻央	教行	□□□□	□ 年□月	□□□□
69	主任	牧野 志穂	教行	□□□□	□ 年□月	□□□□

定時制

整理 番号	職 名	氏 名	事務 分担	住 所	勤務年数 年 月	摘 要
70	教頭	佐野 薫	教頭	□□□□	□ 年□月	□□□□
71	教諭	村松 真樹	英語	□□□□	□ 年□月	□□□□
72	教諭	松永 美千代	家庭	□□□□	□ 年□月	□□□□
73	教諭	牧野 愛	数学	□□□□	□ 年□月	□□□□
75	教諭	野々村 海人	理科	□□□□	□ 年□月	□□□□
76	教諭	菊地 亮輔	保体	□□□□	□ 年□月	□□□□
77	教諭	芹沢 実緒	国語	□□□□	□ 年□月	□□□□
78	教諭	島村 英二	英語	□□□□	□ 年□月	□□□□
79	教諭	増尾 幸太郎	社会	□□□□	□ 年□月	□□□□
80	主事	望月 隆仁	行政	□□□□	□ 年□月	□□□□
平均年数				3 年11月		

全日制

整理 番号	職 名	氏 名	事務 分担	住 所	勤務年数 年 月	摘 要
1	主事	望月 維芳	事務	□□□□	□ 年□月	□□□□
2	会計年度 任用職員	塩澤 貞裕	用務	□□□□	□ 年□月	□□□□
3	会計年度 任用職員	吉田 広司	用務	□□□□	□ 年□月	□□□□
4	会計年度 任用職員	杉山 洋一	国語	□□□□	□ 年□月	□□□□
5	会計年度 任用職員	長嶋 博之	社会	□□□□	□ 年□月	□□□□
6	会計年度 任用職員	吉田 昌弘	社会	□□□□	□ 年□月	□□□□
7	会計年度 任用職員	脇谷 邦弘	理科	□□□□	□ 年□月	□□□□
8	会計年度 任用職員	山西 晶	理科	□□□□	□ 年□月	□□□□
9	会計年度 任用職員	高橋 宏彰	英語	□□□□	□ 年□月	□□□□
10	会計年度 任用職員	丹波 誠	英語	□□□□	□ 年□月	□□□□
11	会計年度 任用職員	増谷 恵	家庭	□□□□	□ 年□月	□□□□
12	会計年度 任用職員	野畑 一夫	書道	□□□□	□ 年□月	□□□□
13	会計年度 任用職員	榊原 勝	音楽	□□□□	□ 年□月	□□□□
14	会計年度 任用職員	Ryan Forrest	英語	□□□□	□ 年□月	□□□□

定時制

整理 番号	職 名	氏 名	事務 分担	住 所	勤務年数 年 月	摘 要
15	養護教諭	小森 研二	養護	□□□□	□ 年□月	□□□□
16	非常勤講師	大石 一乗	情報	□□□□	□ 年□月	□□□□
17	非常勤講師	太田 彩子	通級	□□□□	□ 年□月	□□□□

□□□□

職 員 の 年 齢 調

(令和7年4月1日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	7 人	
30歳以上40歳未満	11 人	
40歳以上50歳未満	14 人	
50歳以上56歳未満	19 人	
56歳以上61歳未満	18 人	再任用1人
61歳以上	9 人	再任用9人
計	78 人	平均年齢 49歳1月

□□□□

健 康 管 理

1 6 年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 81 人
	職 員 数 81 人
受 診 率	100.0 %
県 平 均 受 診 率	100.0 %

(1) 未受診の理由

2 7 年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	人
B 2		要経過観察	人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってもよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	人
C 2		要経過観察	0 人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	31（31）人
D 2		要経過観察	29（29）人
D 3		医療不要	16（16）人
区分者計			76（76）人
未区分者計			2（2）人
合 計			78（78）人

(1) 管理区分 A～C 2 該当者
に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア □□□□ 人
イ □□□□ 1 人
ウ □□□□ 人
エ □□□□ 1 人
(□□□□)